CSR Report 2013

トヨタ車体
TOYOTA AUTO BODY

目次

■トップメッセージ 2
■会社プロフィール 4
■基本理念 7
■コーポレート・ガバナンス 7
■特集 超小型電気自動車 コムス 8
■トピックス 12

■環境側面
環境に対する基本的な考え方 13
■製品環境 14
低炭素社会の構築 15
循環型社会の構築 16
環境保全と自然共生社会の構築 17
■生産環境 18
低炭素社会の構築 19
循環型社会の構築 20
環境保全と自然共生社会の構築 21
環境マネジメント 22

■社会側面 23
■お客様とのかかわり 24
■取引先様とのかかわり 28
■地域とのかかわり 30
■社員とのかかわり 33

編集方針

1999 年「環境報告書」の初版を発行し「環境・社会報告書」を経て 2010 年に「CSR レポート」と改題し本版で 15 回目の発行となります。

当社の CSR は環境側面として" 製品環境 "" 生産環境 "の視点から、社会側面として「お客様」「取引先」「地域社会」「社員」とのかかわりの視点から、4 つの委員会(製品環境、生産環境、企業行動倫理、社会貢献)を構成して CSR 活動に取り組んでいます。

今年度は特に、環境・社会の両面で、高い関心をいただいた"超小型電気自動車コムス"を特集記事として掲載しました。

また、昨年同様、特徴ある取り組みをわかりやすく、よりコンパクトにお伝えできるように構成し、更に深く知りたい方には本文中から詳細データを閲覧できるようにいたしました。

最終頁にアンケートを掲載していますので皆様の忌憚のないご意見をお寄せくださいますようお願いいたします。

本レポートの対象範囲と期間

対象範囲	トヨタ車体と連結対象会社
対象期間	2012 年 4 月～ 2013 年 3 月を原則としますが、進捗のあった項目で活動の理解を深めると思われるものは期間を超えて報告しています。

表紙のクルマ

超小型電気自動車 コムス（2012 年 7 月発売）

コムス（P・COM）

コムス（B・COM デリバリー）

超小型電気自動車コムスは、環境に優しい電気自動車。走行時ゼロ・エミッション・省資源・省エネルギー・省スペースに優れ、人と地球にやさしいエコカーです。

click 「コムス」

クルマづくりを通じて
豊かな社会づくりに貢献します

トヨタ車体株式会社
取締役社長
網岡 卓二

取り巻く環境と今後の方向性

世界の自動車市場は新興国を中心に今後も成長が見込まれており、特に新興国では当社が手がけるミニバン・商用車・SUV が人流・物流の両面において経済発展を支える重要な交通手段になっています。

そのため、トヨタ車体では国内外の市場調査活動を通じてお客様が何を求めているのかを把握し、お客様の期待に応える「良い商品」をお届けすることが豊かな社会づくりに貢献するという考えのもと、全社一丸となって「良いクルマづくり」に取り組んでいます。

そしてお客様のニーズにひとつひとつ応えることが、生産台数を増やすことになり、その結果、国内生産の維持、雇用の確保にもつながるものと考えております。

当社は昨年７月に環境保護と生活の利便性の向上を通した豊かな街づくりに貢献する超小型電気自動車「コムス」を 12 年振りにフルモデルチェンジいたしました。
この新型コムスは発売以来、国内外の都市で低炭素社会の実現に向けた実証実験や高齢化社会に対応した新しいビジネススキームとして様々な場面で活用していただいており、大変うれしく感じております。

持続可能な社会の実現を目指して

豊かな社会づくりに向けた商品を提供する一方で、新興国市場の急速な拡大による世界レベルでの石油消費量の増加や、CO_2 削減への取り組みなどによる環境技術への対応が我々自動車メーカーの重大な責務となっております。

このような中、当社は、2011 年 3 月に 2011 年度から 2015 年度までの 5 年間に実施すべき活動を「第５次トヨタ車体環境取り組みプラン」としてまとめ、取り組みを推進しています。

■トップメッセージ

このプランでは、「低炭素社会」「循環型社会」「環境保全と自然共生社会」の構築を重点テーマとし、画期的な車両軽量化やリサイクル設計の推進、省エネルギーによる環境にやさしい工場づくりに向け、全社の総力を挙げて取り組んでいます。

更には地域との共生、自然と調和する工場づくりの一環として従業員や地域の方々が自然とふれあいながらスポーツ（フットサル、テニス）を楽しんだり、里山をイメージしたビオトープや農業体験などができるエコパークの整備にも着手しています。

また、これらの取り組みを実現するのは全て「人」であり、良いクルマをつくるには良い人材が基本となります。当社では仕事をする上で大切にしてきた考え方を「私たちの大切にするもの」としてまとめ、お客様に満足していただける製品をつくりだす土台として、社内のみならず国内外の子会社へも展開し更なる浸透・定着を図っております。

加えて、ボランティア活動の積極的推進により良き企業市民として、地域に貢献できる人材育成にも努めています。

企業は社会の公器と言われますが、社会に役立ってこそ存在するものであると思っています。そのためには、世界中のお客様から期待されるクルマを今後も提供し続け、社会から必要とされる企業であり続けたいと思っています。

当社が取り組む CSR 活動を一人でも多くの方にご理解いただけるよう、当社の取り組みをこの CSR レポートに取りまとめました。皆様からの忌憚の無いご意見をお待ちしております。

2013 年 6 月

＜新型コムス発売 記者発表　2012 年 7 月（メガウェブにて）＞

＜2012 年日経M J 賞最優秀賞受賞　2013 年 1 月＞
（コムスを使用した宅配サービスにて
セブン - イレブン・ジャパン様とともに）

日経 MJ 賞（日本流通新聞賞）とは、その年に発表された
新製品、サービスの中から最も優れたものを表彰する制度

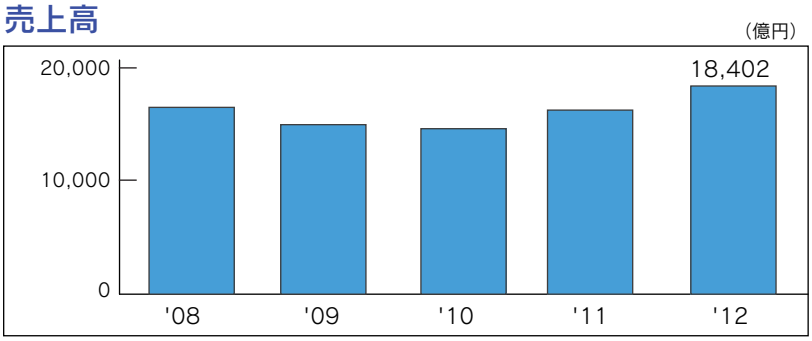
■会社プロフィール

会社概要

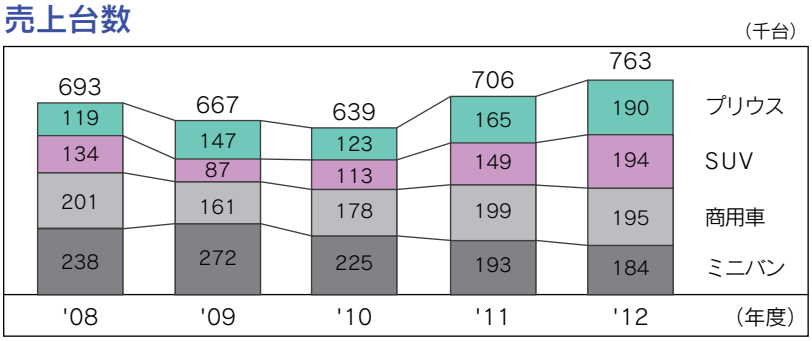
社　　名	トヨタ車体株式会社
本社所在地	愛知県刈谷市一里山町 金山 100 番地
設　　立	1945 年 8 月 31 日
代 表 者	取締役社長　網岡　卓二
資 本 金	103 億 7 千 1 百万円
売 上 高	1 兆 8,402 億円 (2012 年度実績・連結)
事 業 所	本社／富士松工場、 いなべ工場、吉原工場、 刈谷工場、寿新規開発センター

関連情報
- click 会社概要
- click 製品ラインナップ
- click 開発から生産までの流れ

売上高



売上台数



主要製品

ミニバン

アルファード

ヴェルファイア

エスティマ

ヴォクシー

ノア

商用車・コミューター

ハイエース

コースター

SUV

ランドクルーザー 200

ランドクルーザー 70
ピックアップ (輸出モデル)

セダン

プリウス

福祉車両

リフトタイプ
車いす仕様車

サイドリフト
アップシート車

スロープタイプ
車椅子仕様車

ウェルキャリー
(フレンドマチック
取付用専用車)

特装車

冷凍車

小型 EV

コムス

■会社プロフィール

主な事業所

生産拠点

本社・富士松工場
愛知県刈谷市一里山町金山 100 番地

主要製品
エスティマ、エスティマ HV
ヴォクシー、ノア、
プリウス

いなべ工場
三重県いなべ市員弁町市之原 10 番地

主要製品
アルファード、ヴェルファイア
ハイエース、レジアスエース

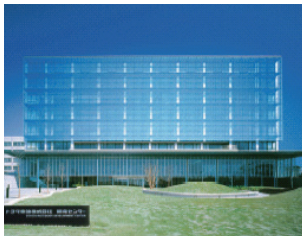
吉原工場
愛知県豊田市吉原町上藤池 25 番地

主要製品
ランドクルーザー 200
レクサス LX570（輸出専用モデル）
ランドクルーザー 70（輸出専用モデル）
コースター

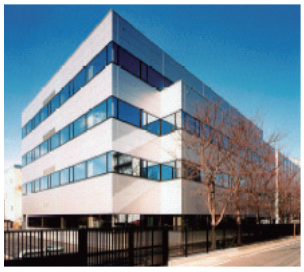
刈谷工場
愛知県刈谷市昭和町 2 丁目 1 番地

主要製品
コムス
福祉車両「ウェルキャブ」

開発拠点



開発センター
本社・富士松工場内



生産技術センター
本社・富士松工場内

寿 新規開発センター
愛知県豊田市寿町 1 丁目 36 番地 1

国内・海外　子会社

国内子会社

岐阜車体工業（株）
（岐阜県各務原市）

（株）東海特装車
（愛知県安城市）

トヨタ車体精工（株）
（愛知県高浜市）

エース産業（株）
（愛知県刈谷市）

東海部品工業（株）
（愛知県刈谷市）

ＴＡＢＭＥＣ（株）
（愛知県刈谷市）

■会社プロフィール

国内子会社

（株）トヨタ車体研究所
（鹿児島県霧島市）

（株）エル・エス・コーポレーション
（愛知県刈谷市）

（株）イナテック
（三重県いなべ市）

ライフクリエイション（株）
（愛知県豊田市）

（株）ライフサポート
（愛知県安城市）

（株）ジー・アイ・サービス
（岐阜県各務原市）

＊子会社の岐阜車体工業㈱の
100％ 子会社

海外子会社

スギティー
クリエーティブス（株）
（インドネシア）

春翔欣業（株）
（中華民国（台湾））

タイオートコンバージョン（株）
（タイ）

トヨタオートボデートーカイ
エクストゥルージョン（株）
（インドネシア）

トヨタオートボデー
マレーシア（株）
（マレーシア）

オートパーツ
マニュファクチャリング
ミシシッピ（株）
（アメリカ）

トヨタオートワークス（株）
（タイ）

レジンプラッティング
テクノロジー（株）
（インドネシア）

じあしん ほうじつふくしきしゃぶけん
嘉興 豊実福祉汽車部件
有限公司
（中国）

関連情報　click 国内子会社　click 海外子会社

基本理念

基本理念　（1995年制定、2004年改定）

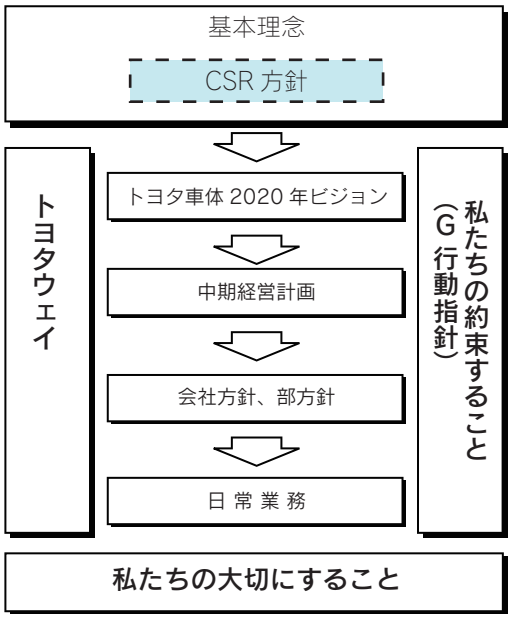
1. 環境との調和とオープンでフェアな企業行動を基本とし、国際社会から信頼され、豊かな社会づくりに貢献する企業をめざす。
2. お客様を第一に考え、研究と創造を通して、生活空間を豊かにする「よい商品」を提供する。
3. 人と組織を活性化し、創造力と活力ある企業風土をつくり、企業の繁栄と社員の幸せを追求する。
4. 取引先との相互信頼と開かれた取引関係を基本に、互いに経営体質の強化に努め、長期安定的な成長と共存共栄を実現する。

CSR 方針

当社はトヨタ自動車㈱の子会社として、2009年度よりトヨタ自動車㈱のCSR方針を共有し歩調を合せた活動を推進しています。

click 「CSR 方針」

CSR 方針との位置付け



コーポレート・ガバナンス

基本的な考え方

当社は、オープンでフェアな企業行動を基本理念に掲げ、「よい商品」づくりを通して世の中を豊かにするとともに企業の繁栄と従業員の幸せを追求し、取引先との信頼関係を築くことにより事業の持続的成長を目指しております。これらの実現に向け、コーポレートガバナンスの充実・強化が重要と位置づけています。

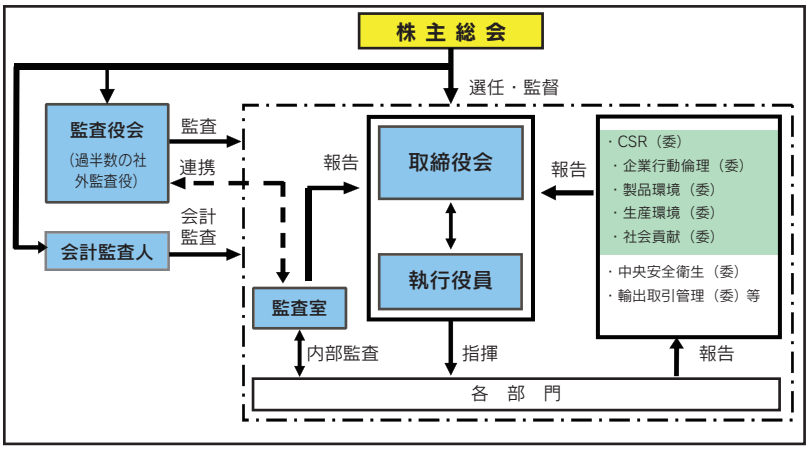
経営の透明性を高める仕組みの強化

2005 年より執行役員制度を導入し、経営の意思決定と監督機能を担う取締役会と業務執行を担う執行役員とに分離しています。

さらに業務執行に関しては全部門横断的な委員会等で審議する体制を構築してきました。

また、過半数の社外監査役を含む監査役の監査ならびに会計監査人による会計監査のほか、各部門から独立した監査室が、財務報告の信頼性及びコンプライアンスの領域を重点に内部監査を実施しています。

コーポレートガバナンス体系図



CSR 活動体制

企業倫理、コンプライアンス、リスク管理、社会貢献および環境に関する活動をより充実させるため、全取締役および監査役で構成する「CSR 委員会」と その下部組織として 4 つの委員会を 2009 年 5 月に設置し、重要課題について審議・対応しています。

■特集　超小型電気自動車 コムス

1. コンセプト（全てのお客様のために）

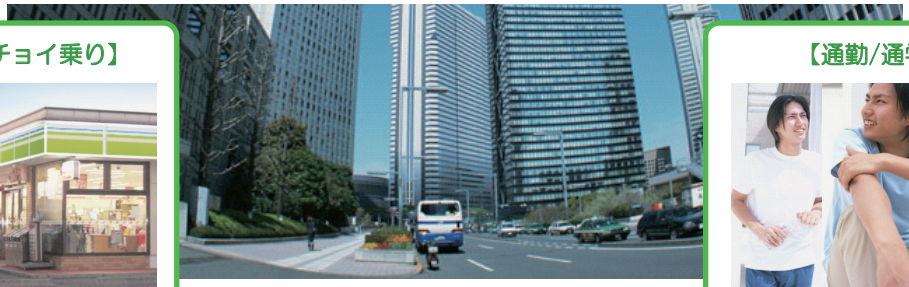
【気軽に/オシャレに】

【荷物もOK】

ちょっと　お出かけ　街まで　スイスイ

Chotto **O**dekake **M**achimade **S**uisui

【買い物/チョイ乗り】



【通勤/通学】

＜お客様に喜んでいただくために＞

「環境に優しい街乗り車としての基本性能（便利・快適）の充実」と「トヨタ車体ブランドとしての確かな品質（安心）」に、「誰もが乗ってみたくなるデザインとお求めやすい価格での提供」を目指しました。

デザイン

快適

便利

安心

新型 COMS 誕生！

製品企画　担当者の声

製品企画センター
松永　豪

環境にやさしく、簡単・便利で経済的な「新型コムス」を、これからの新しい街づくり、新しい生活スタイル、新しいビジネスづくりに、役立てたいとの思いで開発に取り組みました。

click「コムスのあゆみ」　click「当社 HP コムス コンセプト」

2. お客様に喜んでいただくために（4つのポイント）

若者から高齢者・女性まで愛される**デザイン**の実現

<Key sketch>

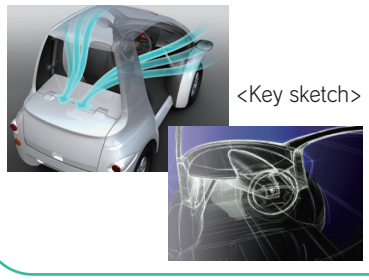
パーソナルユース・ビジネスユース モデル

新しさと親しみやすさを表現して

■コンパクトさを活かした【バイクのような機動性 / 爽快感】と 4 輪ならではの【クルマの安心感】をあわせ持った**『新ジャンルモビリティ』**

スタイリングポイント

たまごのようなカプセルシェイプのフロント部で親しみやすさを表現したスタイリングとしました。


<Key sketch>

運転する楽しさの体感を目指して

■一人乗り EV ならではの車両センターでのドライビングポジションや操作感を味わえる今までにない**『オープンエア感覚』の室内空間**

スタイリングポイント

風を感じ・運転する楽しさを体感していただくため、前方視界をよくする薄いインパネや特徴あるシートとパイプのコンビネーションで機能美をアピールしています。

GOOD DESIGN BEST 100 受賞！

『GOOD DESIGN AWARD 2012』において応募総数 3132 件中**『未来を示唆するデザイン 100 件』にコムスが選ばれました！**

かわいらしいデザインは子どもにも人気！

デザイン　担当者の声

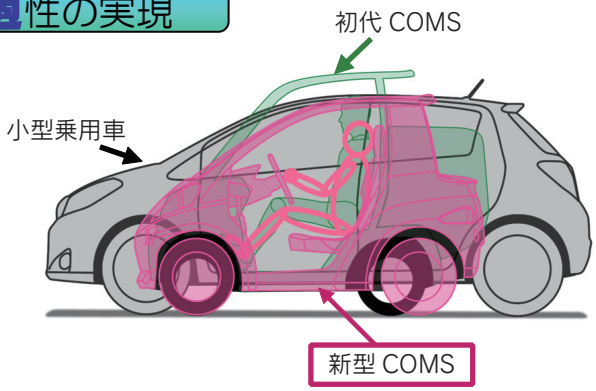
デザイン部
澁谷　勝利

今回の受賞を受け、大変光栄に感じています。またデザインの与える影響力と責任を肌で感じ、これからも常にお客様が乗ってみたいと思うようなデザインに心がけます。

乗用車レベルの乗り心地を目指した**快適**性の実現

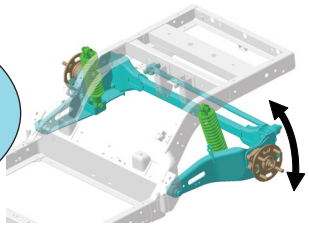
運転しやすさを目指して

・乗用車と同じ感覚の乗降性と運転姿勢により、安心して操作ができる
・一人乗りなので左右の車幅がよくわかるので取り回しが楽ちん



安定した走行と乗り心地の向上を目指して

・サスペンションストロークを充分とって、悪路での底突き感を解消
・トーションビームによるロール剛性を高めて、走行時の安定感を確保



新構造のリヤサス：
トーションビーム式コイルスプリング

コムス　ユーザーの声

お寺様の檀家回り

小回りが効き、狭い路地でもラクラク！

■特集　超小型電気自動車 コムス

2. お客様に喜んでいただくために（4つのポイント）

お客様の様々な使い勝手に対応した便利さの実現

お客様の「こんなのが欲しい」に応えて

P・COM
<パーソナルユース向け>

トランクボックス(150ℓ)

B・COM
<ビジネスユース向け>

デリバリーボックス(350ℓ)　パイプデッキ

コムス　ユーザーの声

乳飲料商品の配達

とても静かで、住宅地や赤ちゃんのいる家でも、気兼ねなく訪問できてます。

気軽に使えて、おサイフにやさしく、細い道路もスイスイ

最小回転半径 3.2m

家庭用 100V コンセントにて充電

click「コムス カタログ」

維持経費も経済的

車両性能	最高速度	60km/h
	一充電走行距離（街乗り想定）	50km
燃費	満充電時間	6H
	満充電電気代	約 120 円
	（1km 当りの電費）	（約 2.4 円 /km）

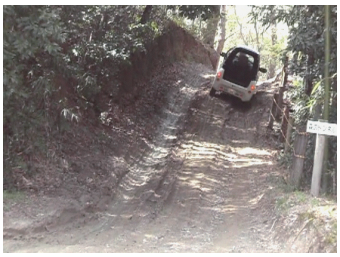
（電気代は 23 円 /kwh で算出）

お客様に安全・安心の提供

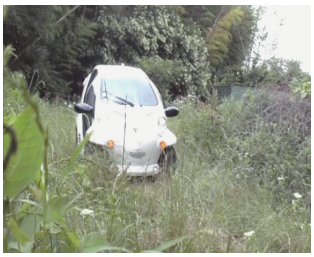
お客様の使い方・使われ方を想定した評価により、『走る、曲がる、止まる』の基本性能を向上

浸水路走行試験

段差乗越試験



悪路走行試験



草むら走行試験

走行耐久試験

雪路走行試験

コムス　ユーザーの声

農作物の収穫、畑の見回り

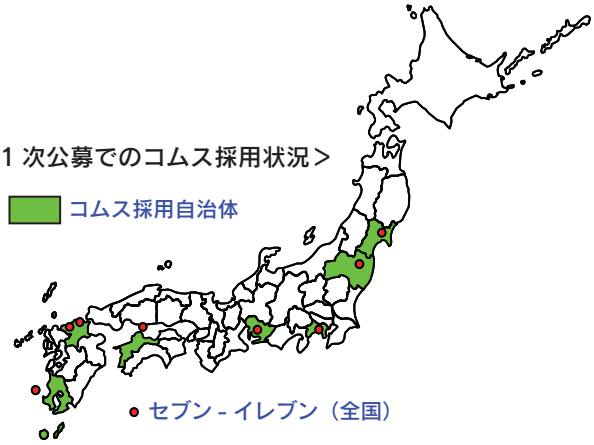
収穫物をしっかり積んでも安心して走れます。

3. 地域社会への貢献

コムスを利用した低炭素・省エネ型の街づくりに向けて

新型コムスの発売以来、各市町村では様々な活用がされています。また、国土交通省の超小型モビリティ認定制度が創設され、地方自治体主導の試行導入に事業の第 1 次公募において 15 事業中、9 事業にコムスが採用（419 台）されており、新たな街づくりへの取り組みが進められています。

＜第 1 次公募でのコムス採用状況＞



各自治体での導入計画例

＜シェアリング＞クルマと公共交通の最適利用を目指して
低炭素社会システム実証プロジェクト
（愛知県豊田市、トヨタ自動車）

（導入地域）
・神奈川県藤沢市

コムスを用いた カーシェアリングを提供する事で、クルマと公共交通の最適利用を目指すものです。

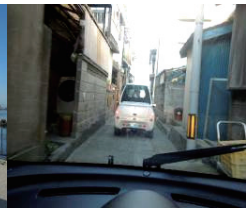
「スマートモビリティパーク」（とよたエコフルタウン内）
トヨタ自動車 News Release より

＜観光＞気軽に利用できる移動の”足“として
点在する観光地での観光客へのレンタル活用に向けて導入が検討されています。

（導入予定）
・福岡県福岡市

三重県伊勢市
観光での活用予定

＜離島＞小道をスイスイ、家庭で充電できる便利さ
狭い道路事情への対応や経済性に優れるコムスの観光客や住民への貸し出し活用による導入が検討されています。



（導入地域）
・愛媛県上島町
・福岡県宗像市
・鹿児島県
　薩摩川内市

三重県鳥羽市
離島での実証実験

＜公共サービス＞排ガスゼロと静かさがやさしさ
電気自動車の特徴である「排出ガスゼロ」「静かな走行」を評価いただき、介護福祉や復興支援訪問に活躍しています。

（導入予定）
・宮城県美里町
　介護福祉訪問用
・福島県警察本部
　仮設住宅訪問用

愛知県高浜市
介護福祉訪問用での活用

＜高齢化社会への対応＞日々のお買物をもっと「便利」に「快適」に！

セブンらくらくお届け便　全国

「店へ買物には行きたいが商品を持って帰るのが大変」「家に運んでくれたら助かるのに」といったお客様の声がセブン - イレブン･ジャパンに多く寄せられたことを受けて開始されたものです。

セブン - イレブン
News Release より

日経MJ賞 最優秀賞 受賞

「日経優秀製品・サービス賞 2012」において日経 MJ 賞最優秀賞を、セブン - イレブン･ジャパン様とともに受賞いたしました（2013 年 1 月）。

2012 年日経優秀製品・サービス賞 表彰式

click「Facebook 公式ページ」　click「YouTube COMS-Fit Your Life !!」

■トピックス

【海外事業展開】

＜海外で車両生産を開始＞

タイ TAW でハイエース生産開始

インドネシア S/C で NAV1（国内車名：ノア）生産開始

インドネシア メッキ事業新会社設立の調印式（2013 年 1 月）

ハイエースのラインオフ式（TAW）

NAV1 のラインオフ式（S/C）

現地のお客様ニーズに合ったクルマづくりに向け、2013年1月、当社の海外子会社であるトヨタオートワークスでハイエース、スギティークリエーティブスでノアをベースとしたNAV1の生産を開始。両国とも、日本から部品を輸出し、現地で組み立てるCKD(ノックダウン)生産を行い、タイでは年間1万8,000台、インドネシアでは年間6,000台を生産する予定

インドネシアでメッキ事業新会社「レジンプラッティングテクノロジー㈱」(RPT)の合弁契約調印式を開催

【スポーツ関連】

ダカールラリー 2013 市販車部門準優勝

男子ハンドボール部 日本ハンドボールリーグ準優勝

女子バレーボール部 V- プレミアリーグで活躍

近隣地域の方々などから提供いただいた廃食油を精製したバイオディーゼル燃料を 100% 使用して参戦

トップリーグでの活躍を通じて、従業員の活力向上に貢献

click「ダカールラリー HP」

click「スポーツクラブ ハンドボール」

click「スポーツクラブ バレーボール」

■環境側面

環境に対する基本的な考え方

将来にわたり、豊かで住みやすい社会であり続けるために

当社は基本理念に“環境との調和”を掲げ、1993 年に「トヨタ車体環境基本方針」を制定して以来、5 年単位の実行計画を示した「トヨタ車体環境取り組みプラン」を策定し，具体的な活動を展開しています。
2011 年度からは『第５次トヨタ車体環境取り組みプラン』がスタートし、「低炭素社会の構築」「循環型社会の構築」「自然共生社会の構築」を柱に活動を推進しています。

トヨタ車体環境基本方針　（1993 年制定　2004 年改訂）

❶豊かな 21 世紀社会への貢献

豊かな 21 世紀社会へ貢献するため、環境との調和ある成長を目指し、事業活動のすべての領域を通じて、ゼロエミッションに挑戦します。

❷環境技術の追求

環境技術のあらゆる可能性を追求し、環境と経済の両立を実現する新技術の開発と定着に取り組みます。

❸自主的な取り組み

未然防止の徹底と法基準の遵守に努めることはもとより、地球規模の環境課題を踏まえた樹種的な改善計画を策定し、継続的な取り組みを推進していきます。

❹社会との連携・協力

関係会社や関連産業との協力のもとより、政府、自治体を始め、環境保全にかかわる社会の幅広い層との連携・協力を構築していきます。

第５次「トヨタ車体環境取り組みプラン」（2011 ～ 2015 年）

	低炭素 社会の構築	循環型 社会の構築	自然共生 社会の構築
製品環境（開発設計）	・電気エネルギーを利用した次世代車の開発推進 ・燃費向上に寄与する軽量化技術の開発と製品化	・リサイクル設計の一層の推進 部品取外し性の向上 材料分離・分別性への取組み ・リサイクル材の使用拡大	・製品含有化学物質の管理充実 ・環境負荷のより少ない物質への代替え技術開発推進
生産環境（生産・物流）	・省エネ活動の徹底と温室効果ガス排出量の低減 ・物流活動における輸送効率の追求とCO_2排出量の低減	・排出物の低減と資源の有効利用 歩留り向上等の発生源対策 ・梱包資材使用量の低減	・生産活動における環境負荷物質の低減 塗装工程　塗料・洗浄シンナー削減等によるVOC低減
社会との連携	・国の超小型モビリティ導入促進事業等への参画（P11）	・循環型社会の構築に資する新規事業の推進	・国内外での植林活動(P31) ・地域と共生、自然と調和する工場づくりの推進(P30)
環境マネジメント（環境経営）	・グローバル連結環境マネジメントの強化推進 ・グローバルなCO_2マネジメントの推進 ・仕入先と連携した環境活動の一層の推進	・サスティナブルプラント活動の推進 ・環境教育の充実と推進 ・トヨタEco-VASへの積極的参画	

■生産環境 2015 年度目標を設定しました。 ⇨ click 第５次「トヨタ車体環境取り組みプラン」

click 「環境取り組みプラン」経緯　click 2012 年度取り組み結果

製品環境委員会
委員長
大橋　副社長

環境に負荷をかけない製品開発に向けて

豊かな21世紀社会へ貢献するため、お客様の期待以上の良い商品、及び地域のニーズにあったきめ細やかな商品の開発を行っていくと同時に、一層の省資源で環境に負荷をかけない製品の開発・提供を行ってまいります。

製品開発においては、燃費向上・リサイクル解体性の向上・製品含有化学物質の管理充実を柱に取り組んでおります。

今後もさらなる改善により、地球環境と調和したクルマづくりと商品の提供を通じて社会に貢献し、持続的成長を実現していきます。

基本的な考え方

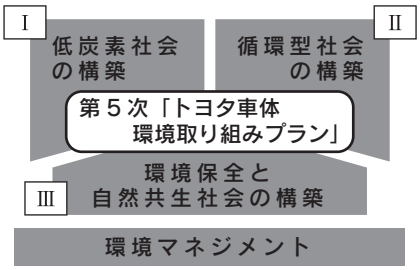
第5次「トヨタ車体環境取り組みプラン」に基き

Ⅰ. 低炭素社会に向けたトップクラスの**燃費性能に寄与する軽量化・空力技術の開発**

Ⅱ. 循環型社会に向けた**資源の有効利用に配慮したリサイクル設計**の一層の推進

Ⅲ. 環境保全と自然共生社会に向けた**製品含有化学物質管理**のグローバルな推進

を重点テーマとして掲げ、具体的実施事項を策定し総合的な環境マネジメントを推進しています。



＜開発体制と実施事項＞

組織			取組みテーマ	実施内容
製品環境委員会	MI*1（軽量化）分科会 Ⅰ		■燃費の向上	●自動車の燃費向上に寄与する軽量化技術の開発と製品化
	リサイクル・解体性分科会 Ⅱ		■リサイクル・解体性の向上	●市場廃却樹脂リサイクル材の部品適用・拡大と解体時間の低減
	製品化学物質分科会 Ⅲ	車両設計 W/G	■化学物質規制に対する対応 ■車室内 VOC*2 規制の対応	●規制化学物質の含有確認・管理と各国環境法規への対応・切替え ●図面・実車評価の推進
		号口車両 W/G	■SOC*3 の監査活動	●新製品非含有確認、号口部品抜取り検査、仕入先監査を実施
	分科会以外の活動 Ⅰ Ⅲ		■LCA*4 評価（ライフサイクルアセスメント） ■塩ビ使用量規制への対応（日、欧） ■燃費の向上	●材料及び重量を調査し CO_2 低減率を確認 ●塩素量 1.5% 以下 ●自動車の燃費向上に寄与する空力技術の開発と製品化

*1 MI:Mass Innovation　*2 VOC:Volatile Organic Compounds 揮発性有機化合物　*3 SOC:Substance Of Concern 環境負荷物質　*4 LCA:Life Cycle Assessment 環境影響評価

click トヨタ車体ハイブリッド生産車とコムスの環境仕様

低炭素社会の構築

トップクラスの燃費性能を目指し、燃費に寄与する軽量化技術の推進

エネルギー・温暖化問題は人類や生態系への影響が懸念される重要な環境問題であり、クルマの開発･設計段階で省資源、省エネルギー、CO_2 排出量の削減に向けた製品開発に取り組んでいます。

自動車の燃費向上に寄与する軽量化技術の開発推進

基本的な取り組み

軽量化技術開発に向け、技術開発テーマ課題について、メンバー全員で活発な議論を行い、今後の対応策を検討します。テーマには構造合理化、高張力鋼板や樹脂材料の適用など、設計・実験と生産技術が連携しなければならないものが数多くあり、この MI 分科会 *1 が技術開発推進の場として大いに役立っています。
そして、今までにボデーの高張力鋼板化等、多くの技術開発の成果が採用されています。

開発・生産技術部門の役員、部長が現地現物で論議する MI 分科会

B ピラー部：ホットスタンプ *2

*1:MI分科会とは、燃費向上に寄与する軽量化技術の開発を開発・生技部門が一体なって推進する分科会
MI:Mass Innovationの略

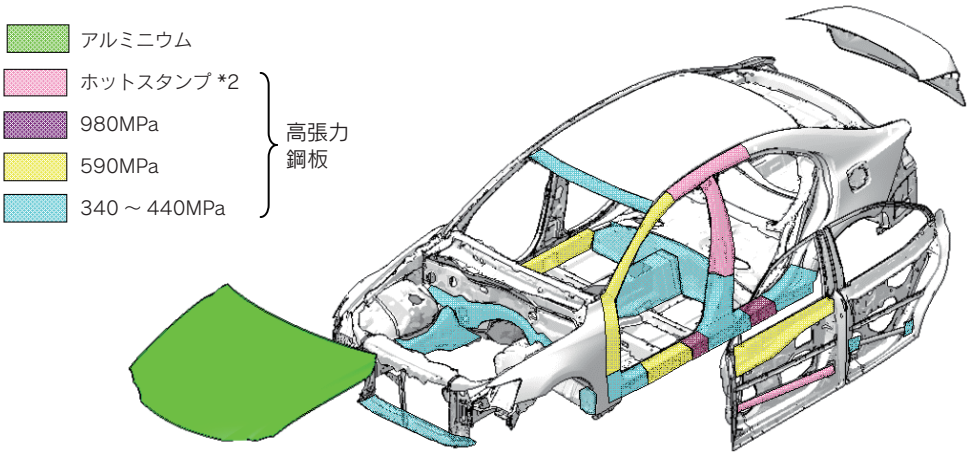
MI分科会 事務局　担当者の声

製品企画センターTYZX
鈴木 基之

「世界最軽量ボデー」を目指し、企画・設計・実験が一丸となって徹底的に議論し、目標達成に挑戦しています。

＜事例 :レクサスIS　ボデーの高張力鋼板・ホットスタンプ*2・アルミ使用による軽量化＞

旧型より採用されているアルミニウムや 340 ～ 440MPa 級の高張力鋼板に加え、新たに、ホットスタンプ材や 590・980MPa 級の高張力鋼板などを効果的に採用することで、軽量化と高強度なボデーの両立を実現しました。



*2 ホットスタンプ：
鋼板を高温加熱し軟質化させた状態でプレス加工を行い、部品を加工する方法で、加工と同時に金型との接触による冷却により焼入れ強化を行う。

循環型社会の構築

資源の有効利用に配慮したリサイクル設計の一層の推進

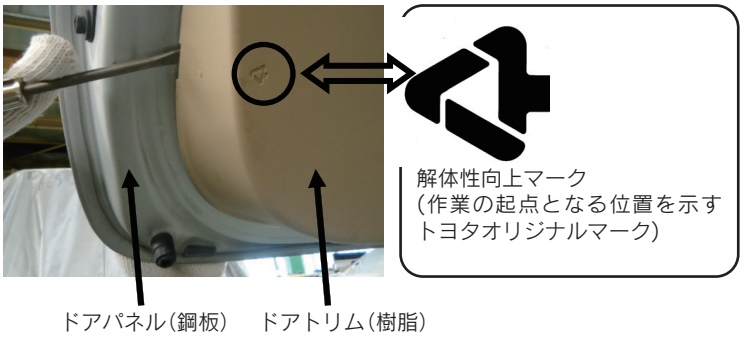
あらゆる資源は有限であるという認識のもと、3R(Reduce, Reuse, Recycle) を柱に、解体性、リサイクルしやすいクルマの開発・設計に取り組んでいます。

解体性の向上

資源をより有効に利用するため、自動車のリサイクル性の向上をめざし、解体しやすい車両構造の研究とその結果を開発車両へ反映しています。

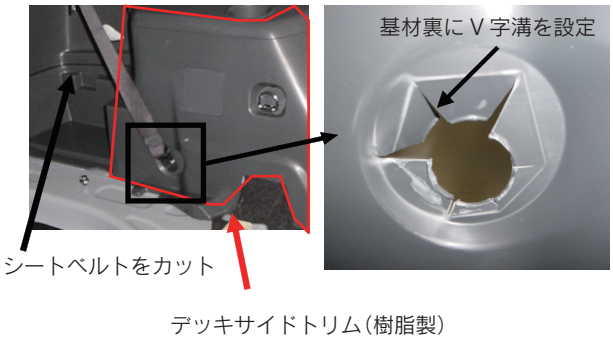
解体性の向上に向けたリサイクル設計事例

＜ドアトリムの引き剥がし事例＞



取り外しを容易にするため、取り外し工具の入るスペースと、起点となる位置を示す解体性向上マークを採用しています。

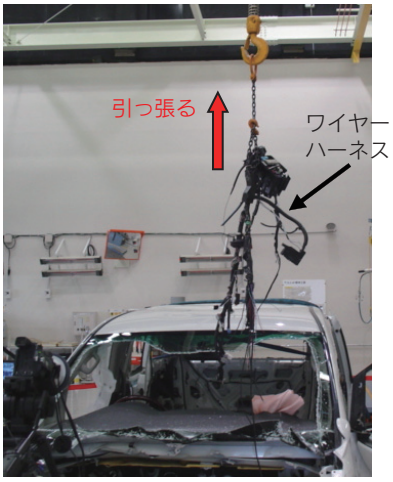
＜デッキサイドトリムの取り外し事例＞



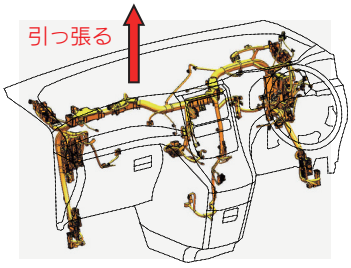
シートベルトの締め付けを取り外すこと無く、トリムが外せる様、Ｖ字溝の薄肉化による破断構造を採用しています。

＜ワイヤーハーネス取り外し構造採用例＞

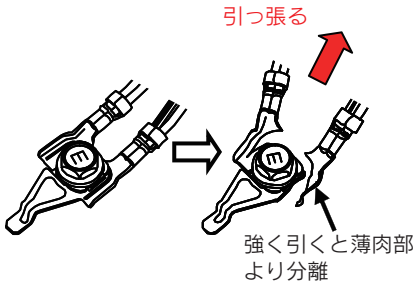
（取り外し方法）
クレーンで引っ張り取り外し



＜上に引いた際に、途中で切れることなくワイヤーハーネス全体を引き剥がせるように、引っかからない取り回し配置＞



＜上締め付け部を外すことなく、引き剥がしが出来るアース端子の採用＞



ワイヤーハーネスを、効率的に取り外す工法として、クレーンでの引き剥がしを実施していますが、それに合わせ、他部品に引っかからないワイヤーハーネス配置の工夫や、強い力で引っ張った際にプルタブのように分離するアース端子を採用しています。

解体性評価　担当者の声

試作部試作評価室
西井 正次

未来の子供達に資源を残して行きたい。
私達が送り出したクルマが有効に利用され、未来の資源に繋がって行く、そんな想いで評価に取り組んでいます。

環境保全と自然共生社会の構築

製品に含有する化学物質管理の推進

原材料・部品サプライヤーなど取引先様と連携し、製品に含まれる化学物質の使用把握とリスクを評価し、より環境負荷の少ない物質への転換を進めています。

製品含有化学物質の管理充実

環境負荷4物質の対応

環境負荷 4 物質	生産事業体
鉛・水銀・カドミウム・六価クロム	2006 年 8 月に全廃 （欧州 ELV 指令 *1 の適用除外用途を除く）

化学物質管理の説明会開催

化学物質規制への対応

「欧州 REACH 規則」（2007 年発効）*2 など各国で化学物質規制が強化されています。

確実な環境法規対応が必要なため、製品に含有する化学物質情報の収集と管理を強化し環境負荷のより少ない物質への代替えをトヨタおよび取引先の方々と協力し進めています。

2012 年 4 月には「トヨタ車体グループグリーン調達ガイドライン」を改訂。
取引先への化学物質管理の充実について説明会を実施し、全 459 社に参加いただきました。
また、10 月より新設部品に含有する化学物質情報の収集を JAMA シート *3 にて開始。2013 年 2 月には取引先へ IMDS *4 仕入先説明会を実施し、4 月より IMDS 入力を開始致しました。

*1 欧州 ELV 指令：End-of-Life Vehicles
欧州連合による使用済み自動車に関する指令

*2 REACH：Registration,Evaluation,Authorization and Restriction of Chemicals
化学物質による人の健康や環境を保護するとともに化学物質管理の企業責任の明確化を狙いとする規則

*3 JAMA シート：製品中に含有する材料・化合物の調査に使用する目的で、日本自動車工業会・日本自動車部品工業会にて合意された帳票

*4 IMDS：International Material Data System
自動車産業界向けの材料情報システム

車室内VOCの低減

トルエン、キシレン、ホルムアルデヒドなど、車の内装部品などから揮発する VOC*5（揮発性有機化合物）は、健康に影響を与える可能性があると言われています。こうした車室内の VOC を低減するため、内装部品の素材、加工法、接着剤の見直しを続けています。

2013 年度発売新型車 ・フルモデルチェンジ車	対応状況
IS	自工会自主目標をクリア

*5 VOC：Volatile Organic Compounds

環境負荷物質　担当者の声

材料技術部材料技術室
三浦 祐嗣

環境負荷物質の低減を目指し代替え技術確立と切替推進に取り組んでいます。
環境負荷の少ない製品を提供しつづけるように積極的に低減技術を推進していきます。

生産環境委員長
石黒副社長

地球環境に優しく自然と調和する工場づくりに向けて

地球環境と調和したクルマづくりを原点として生産活動での環境負荷の一層の低減を進めてまいります。

（1）シンプル・スリムな省エネ型生産ラインづくり
（2）省資源・循環型の加工法の開発や再生可能エネルギーの活用
（3）きめ細かな設備の運転管理と日常改善
（4）ビオトープなどの自然とふれあう場づくりや工場緑化活動の推進

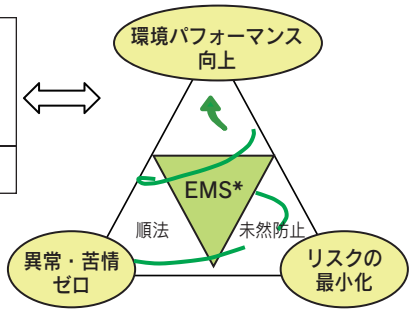
今後も、継続的な環境保全活動を通じて、社会・地球の継続的な発展に貢献してまいります。

取り組みの基本的な考え方

環境マネジメントシステム（EMS）をコアに、「順法」、「未然防止」、「パフォーマンス向上」の3本柱で推進

第5次環境取り組みプラン　　生産環境活動 重点3本柱

第5次環境取り組みプラン
低炭素社会の構築 循環型社会の構築 自然共生社会の構築
環境マネジメント



*: 環境マネジメントシステム

順法	①自主基準値の設定・管理 ②異常・苦情 / ヒヤリ事例の横展 ③日常管理の徹底
未然防止	①リスク低減活動の確実な展開 ②漏洩防止等の未然防止対策の推進
環境パフォーマンス向上 （CO_2, 省資源，他）	①発生源対策による環境負荷低減 ②設備運転方法改善によるムダの排除 ③省エネ、省資源の革新技術開発と導入

＜生産環境取り組み体制と実施事項＞

組織		実施事項
生産環境委員会	工場生産環境委員会（各工場）	①生産性向上、設備運転方法の改善による環境負荷低減 ②設備の日常適正運転及び維持管理
	省エネルギー委員会（生産技術部）	①モデルチェンジでの製品スリム化、加工法改善 ②低CO_2生産技術開発、工場改装等での省エネ型ラインづくり ③エネルギー供給効率の向上、再生可能エネルギーの導入
	トヨタ車体グループ生産環境会議（各生産系子会社）	①全トヨタ車体グループでの環境取り組み活動の横展 ②各事業活動でのCO_2削減活動の展開 ③各国、各地域の環境法令順守と環境リスク未然防止活動の徹底

低炭素社会の構築

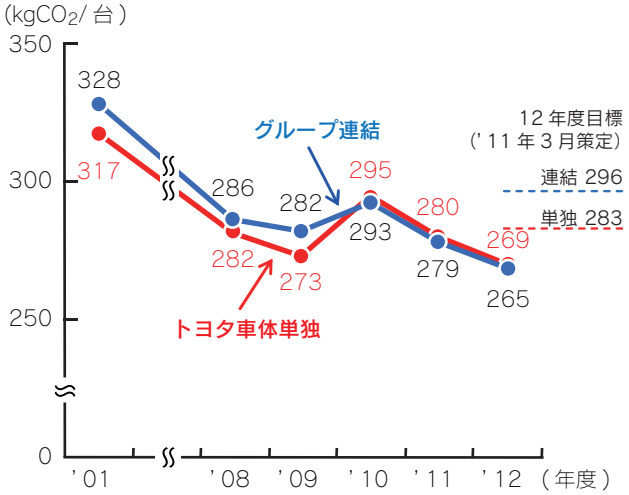
生産活動における省エネ活動の徹底と CO_2 排出量削減

低 CO_2 生産技術開発・導入、生産ラインでの生産性向上の追求、日常の徹底したムダ排除、設備の適正運転を推進しています。また生産物流では輸送効率の一層の向上に取り組んでいます。

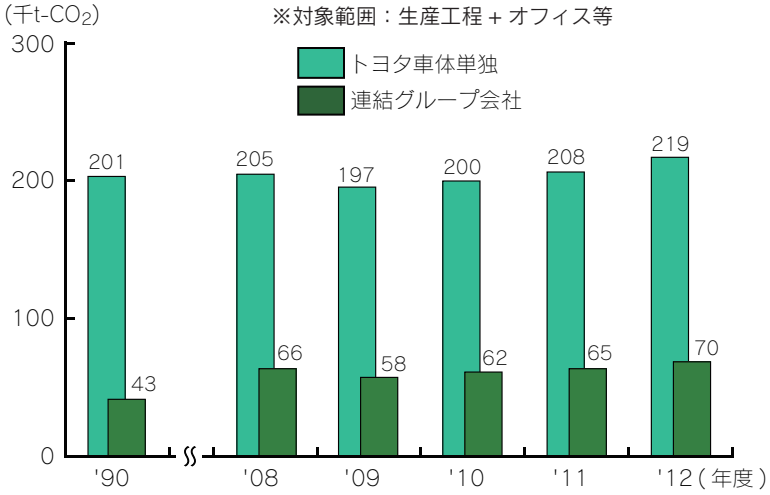
省エネ活動による CO_2 低減の積極的な推進

2012年度は、富士松塗装工程改装での乾燥炉放熱ロスの低減、溶接ロボットの待機時の省電力回路織り込みや、きめ細かな設備停止による非稼動時電力の一層の低減などを実施しました。原単位は前年度比約4%の低減ができましたが、CO_2 排出量は生産台数の増加等により前年に対し増となりました。

台当りCO_2排出量



CO_2排出量



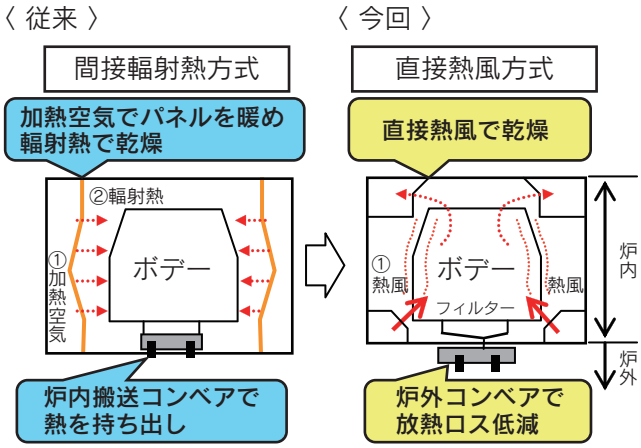
事例

＜富士松第2塗装 中塗乾燥炉、シーラ工程の省エネ＞

塗装工程の改装において乾燥炉放熱ロス低減、シーラ工程の空調機の地下配置などにより CO_2 排出量を低減しました。

中塗乾燥炉の加熱エネルギー低減

エネルギー効率のよい直接加熱方式の導入と搬送コンベアの炉外配置化により放熱ロスを低減、都市ガス使用量を低減しました。

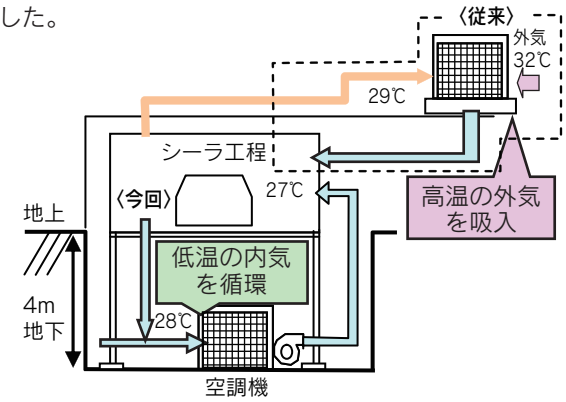


〈熱風乾燥の課題と対策〉

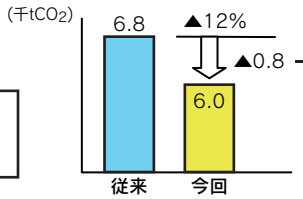
加熱空気中の異物がボデー塗膜に付着 ⇒ 耐熱性の高いフィルター導入により異物を除去

シーラ工程 夏期空調の省エネ

外気に対し地下温度が低いことを利用し、従来屋外に配置していた空調機を地下に配置し吸気温度を下げ電力を低減しました。



中塗炉、シーラ工程CO_2排出量



〈省エネ対策〉

〈乾燥炉〉
- **直接加熱乾燥方式**（事例）
- **炉外コンベア搬送化**
- バーナー空気燃料適正化

〈シーラ・防錆工程〉
- **空調機の地下配置**（事例）
- 防錆材塗布効率向上による工程長短縮

click「生産、物流、オフィスにおける CO_2 低減の取り組み（節電活動など）」

循環型社会の構築

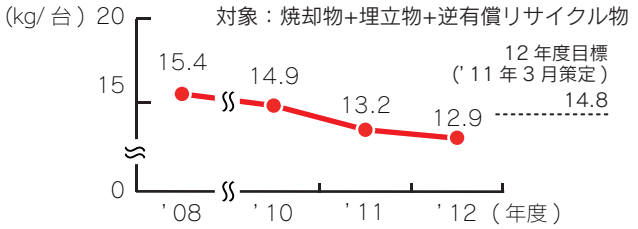
排出物の低減と資源の有効利用

生産時の歩留り向上、発生源対策や物流時の梱包材使用低減など資源の有効利用活動を推進しています。

排出物の低減と資源の有効利用

資源の有効利用を一層推進するため、再資源化技術開発の推進、歩留り向上等の発生源対策による社外排出物の低減に取り組んでいます。

廃棄物排出量



廃棄物低減の主な取り組み

- 塗装工程の回収塗料カス含水率の低減
- 金属複合品の細分化分別とリサイクル化
- 排水処理プロセスの運転条件の適性化と維持

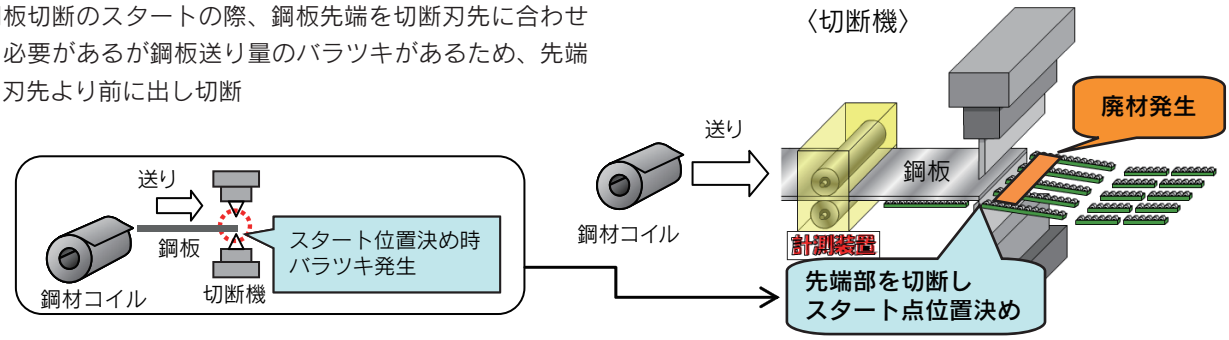
事例

<いなべ工場 プレス鋼板切断ラインの廃材低減>

切断ラインでは、鋼材コイルや生産部品の切替え時に、鋼板の先端部分が廃材となっていました。
今回、鋼板先端の位置計測と自動送り装置の制御改善により廃材の発生を無くすことができました。

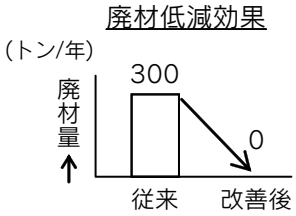
〈従来〉

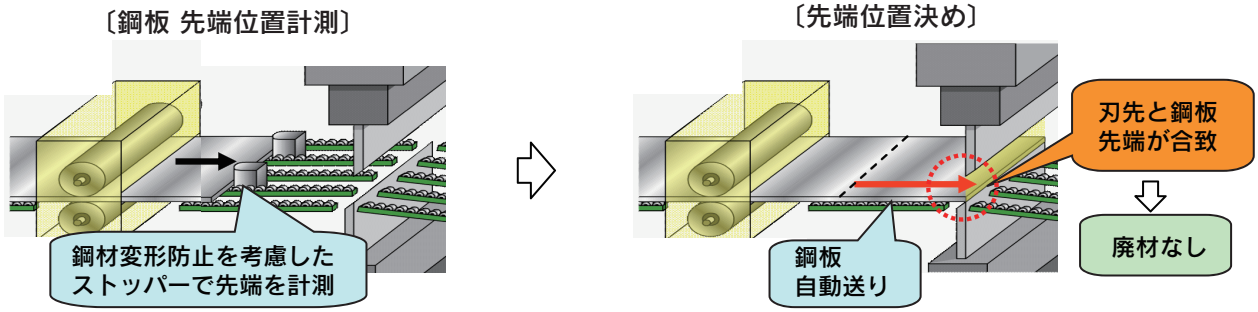
鋼板切断のスタートの際、鋼板先端を切断刃先に合わせる必要があるが鋼板送り量のバラツキがあるため、先端を刃先より前に出し切断



〈今回〉

切断機の手前にストッパーを設け鋼板先端位置を計測、刃先まで自動送りで位置決めする制御に改善





click「生産工程における資源有効利用」

環境保全と自然共生社会の構築

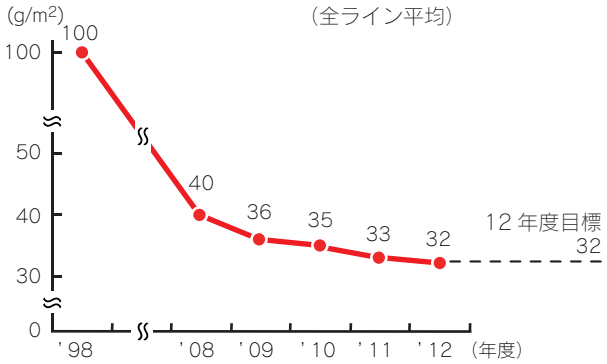
生産活動における環境負荷物質の低減

原材料・部品サプライヤーなど取引先様と連携し、環境負荷物質の使用把握とリスクを評価し、より環境負荷の少ない物質への転換や使用量の低減を推進しています。

生産工程におけるVOC排出量低減活動

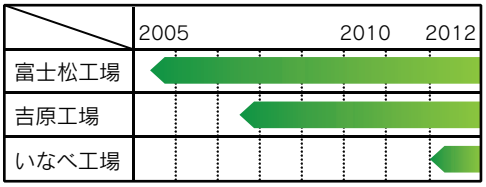
自動車の塗装時に使用する塗料、シンナーのVOC（揮発性有機化合物）削減のため、塗料の水性化切替え、塗料使用量低減、洗浄シンナーの使用量低減・回収率の向上を推進しています。
12年度は、いなべ工場第1塗装ラインの水性化切替を開始しVOC原単位を改善しました。

ボデー塗装面積当りVOC排出量



VOC低減の主な取り組み

・ボデー塗装ベース水性化切替



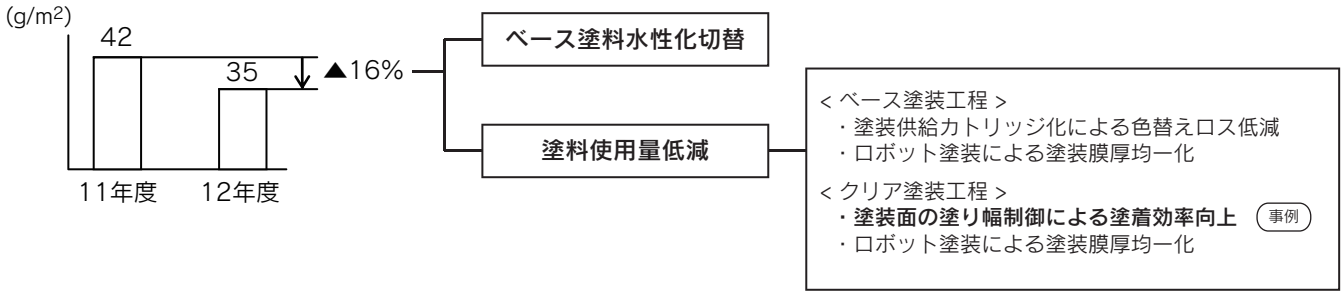
・洗浄シンナー使用量低減
　同色色替え洗浄頻度の適正化
・洗浄シンナー廃棄量低減
　吹付け工程のシンナー回収装置設置

事例

＜いなべ工場 第1塗装ラインのVOC低減＞

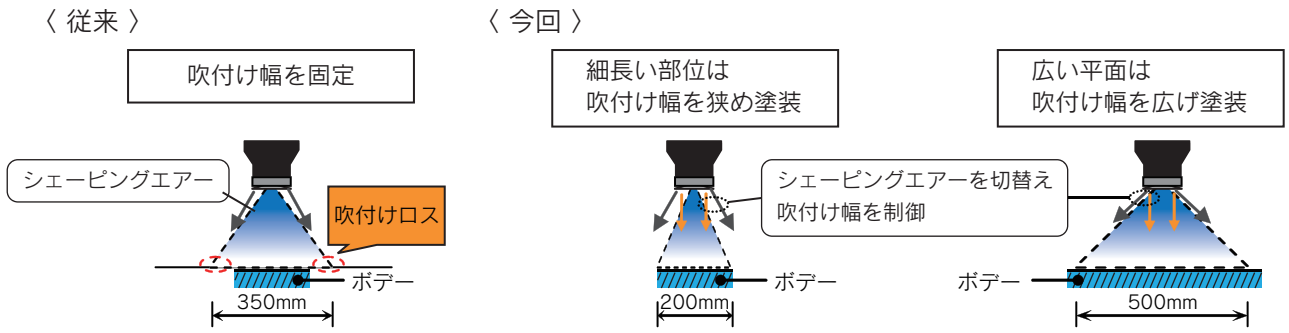
ベース塗料の水性化切替や塗装吹付け時の塗着効率向上などにより、VOC排出量を低減しました。

いなべボデー塗装VOC原単位



塗装面の塗り幅制御による塗着効率向上

ボデーの塗装吹付けパターンはシェーピングエアーによって形成されています。今回、クリア工程塗装機のシェーピングエアーを内側と外側で二重化し、ボデー形状と寸法に合せた塗り幅の可変制御により、塗着効率を向上しました。



環境マネジメント

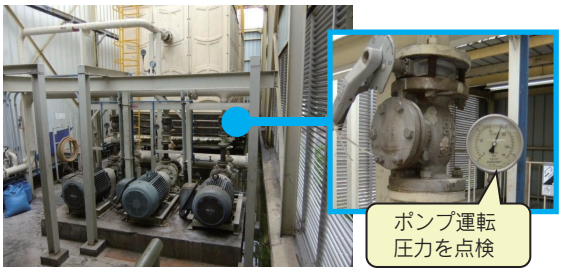
グローバル連結環境マネジメントの推進

国内・海外グループ、取引先、地域と連携したマネジメント体制のなか、新工場建設や新製品の生産設備の設置に際しては、企画から操業まで環境対策を確実に織り込むエコファクトリー活動を推進しています。
また環境教育では、知識向上と行動できる人材の育成に取り組んでいます。

連結環境マネジメントの強化、推進

グループ各社への第 5 次環境取り組みプラン取り組み項目・目標展開と対策事例の情報交換を継続的に実施しています。
2012 年度は国内・海外生産会社を対象に環境取り組み状況進捗確認、現地での漏洩リスクの未然防止活動状況の点検および省エネ診断にも着手しました。
レベルアップの必要な項目は改善計画を立案し推進しています。

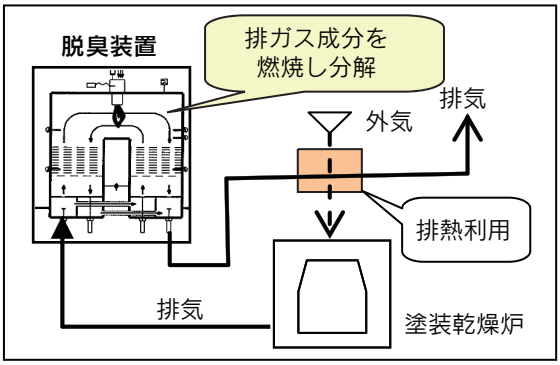
click「トヨタ車体グループ会社の取り組み」



冷却水供給ポンプの省エネ診断（インドネシア S/C）

海外車両生産　新工場のエコファクトリー活動

タイ TAW、インドネシア S/C の車両生産工場の生産設備計画段階より各事業体と連携し環境対応を確実に織り込むエコファクトリー活動を実施しました。
タイ TAW では、塗装乾燥炉の脱臭装置や塗装吹付け工程の排気ダクトへのアフターフィルターの設置など 地域環境に配慮した最新技術を織り込みました。



蓄熱式脱臭装置（タイ TAW）

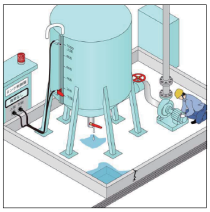
環境教育の充実

社員全員が高い環境意識を持ち、自らの業務の中で常に環境織り込みができる能力を持つことが重要です。トヨタ車体ではグループ会社を含めた社員の環境教育・環境啓発活動を人材育成の柱と位置づけ、推進しています。
海外研修生のカリキュラムに環境教育を織り込み 2012 年度はタイ TAC、タイ TAW、インドネシア S/C の研修生に環境ヒヤリ事例を用いた環境 KY 教育などを実施しました。

click「環境教育」

海外研修生（タイ TAC）の
環境 KY 教育

環境KY*テキスト
[ポンプ保全作業]


*KY: 危険予知
(Kiken Yochi)

その他の環境関連データ

click「事業活動における資源投入量と排出量」
click「環境会計」
click「トヨタ Eco-VAS への積極的参画」
click「環境情報の積極的開示」

企業行動倫理委員会
社会貢献委員会
委員長　市川専務

“安全”“安心”なクルマづくりと全てのステークホルダーの“うれしさ”の追求に向けて

お客様に“喜び”と“満足”を感じていただけるクルマを提供するためには、社員全員が“お客様第一”を理解し実践できることだと思います。当社はモノづくり企業ですが、そのベースとなるのは“人”であり、人材育成が最重点課題であると考えています。

そのために、当社では、日常の仕事をする上での「心構え」を『私たちの大切にするもの』としてまとめ、その浸透・定着をはかり、業務を通じて自己成長を実感できる人づくりを推進しています。

職場風土、意識改革
「私たちの大切にするもの」の浸透・定着活動

2003 年に策定した、日常の仕事をする時の心構えを示した「私たちの大切にするもの」を 2010 年に具体的な事例を織り込んだものに改訂し、トップの体験を通じた「トップ講話」や、大切にするものの心を全員で理解するために、日常の行動宣言・e ラーニングなどを通じ、トヨタ車体グループとして浸透・定着をはかってまいりました。
2012 年には、国内子会社に加え、海外子会社にも展開し始め、トヨタ車体グループとして活動を展開しています。

【Basic MAP：私たちの大切にするもの】

お客様第一

モノづくりを通じてお客様に喜びと満足を感じていただける商品・サービスを提供するために、常にお客様を第一に考えて行動

業務のプロセス

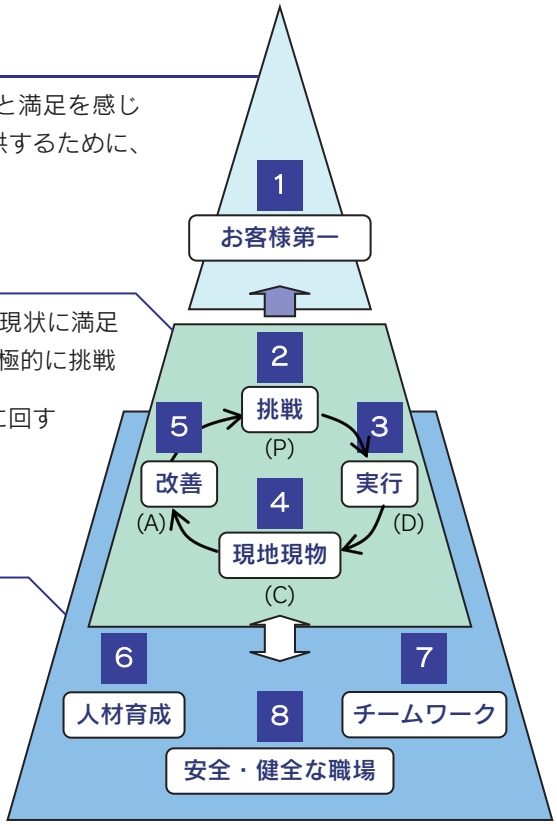
常に 1 ランク高い目標を設定し、現状に満足することなく、自ら新しい課題に積極的に挑戦

業務のプロセス（ＰＤＣＡ）を確実に回す

活力ある職場

従業員一人ひとりのしあわせと安全で健全な職場をつくる

人材育成・チームワークといった人と組織のベースとなる部分をしっかりさせる



1.お客様第一
- ■全てはお客様の満足のために
- ■自工程の役割を完結する

2.挑戦(P)
- ■ベンチマーク　■チャレンジ

3.実行(D)
- ■役割を自覚する
- ■スピーディーに最後までやり遂げる

4.現地現物(C)
- ■現地現物で観察する
- ■なぜなぜを繰り返す

5.改善(A)
- ■絶え間ない改善
- ■失敗を糧とする

6.人材育成
- ■人を育てる　■自らを高める

7.チームワーク
- ■役割を自覚し協力し合う
- ■正直・バッドニュースファースト
- ■聞く耳を持つ

8.安全・健全な職場
- ■安全意識　■ルール遵守
- ■倫理観

click 「私たちの大切にするもの」(2010.12 月改訂発行)

■社会側面

お客様とのかかわり

お客様を第一に考え、良い品質の商品をお届けします

私たちは、お客様に安全で安心して使って頂ける世界№1 品質の製品づくりを目指しています。お客様の声を取り入れ、お客様の安全・安心確保に向けた改善・未然防止活動の推進と合せ、「品質は企業の生命線」であるという思いを全社で共有しています。

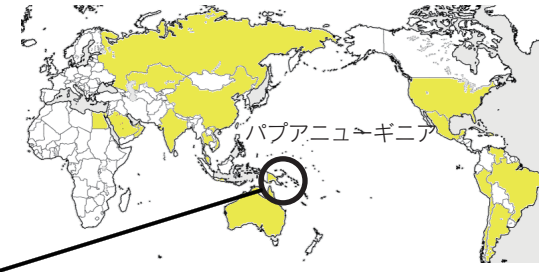
お客様の安全と安心確保に向けた新製品開発での品質のつくり込み

世界中のお客様の声を開発に取り組む活動

ますます多様化している世界中のお客様の期待に応え、世界トップレベルの品質確保を目指して、現地現物での調査や海外駐在員により入手した世界中のお客様情報からお客様の使われ方・各地域の環境条件等を把握し、新製品の設計・評価へ反映しています。

たとえば、小型バスカテゴリーのコースターについて、現地シェアのほぼ100% を占め、かつ厳しい使用環境にあるパプアニューギニアでの現地調査などを実施し、設計・評価へ反映しています。

＜黄色：11、12 年現地調査国＞



技術者による現地調査（パプアニューギニア）の例

パプアニューギニアで乗合バスとして活躍するコースター
（見える全てがコースター）

現地路面の調査（大きな陥没があちこちに）

現地調査　担当者の声

製品企画センター
竹本 尚志

暑さや路面状況等の非常に厳しい環境下で使用していただいているお客様の生の声・要望を確認させて頂きました。この結果を更なる信頼性向上に反映させていきます。

＜世界のお客様の声に応えた車両開発＞

豪州・モンゴル・中近東などにおける現地調査での「こんなランクルがあったら良いのに」と言うお客様の声に応えて、当社で企画・開発を行いました。

70 シングルピックアップトラックをベースにキャビン部を2 列に増やす（5 人乗り）とともに、航続距離を伸ばすため燃料タンクの容量も従来の 90 リットルから 130 リットルに変更しました。（2012 年 8 月生産開始）

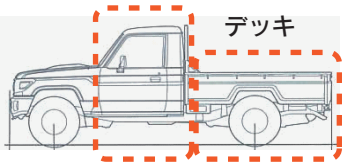
オーストラリアユーザーの
使用状況（ランドクルーザー 70）

モンゴルの鉱山での調査
（ランドクルーザー 70）

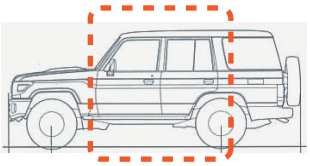
既存車種を活用した効率的な開発

70 ピックアップ ＋ 70 セミロング

キャビン 1 列



キャビン 2 列



キャビン 2 列

ランドクルーザー 70
ダブルキャブピックアップ

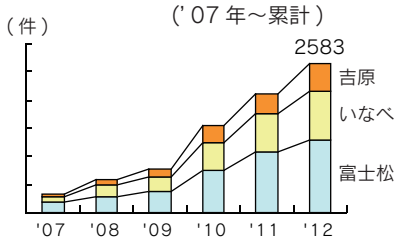
お客様とのかかわり

お客様に良い品質のクルマをお届けするために

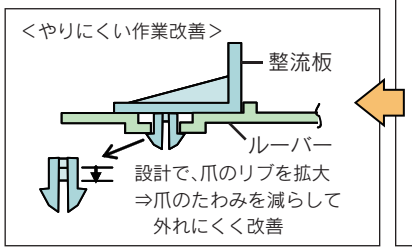
お客様第一の実践＜品質不良を出さないためのやりにくい作業の改善活動＞

量産での品質確保は、製造現場で標準作業を守り作業することを基本としています。
そこで、標準作業を通じ、製造現場からの「やりにくい作業」という声を大切にし、製品設計まで遡って対策することで、品質不良の発生を防ぐ活動に取り組んでいます。
また、万一品質不良が発生した際には、なぜなぜ解析による真因追究からの対策を進め、再発防止を徹底しています。
こういう活動を通じてお客様にとっては大切な 1 台というお客様目線で取り組んでいます。

■やりにくい作業改善件数■
（'07 年～累計）



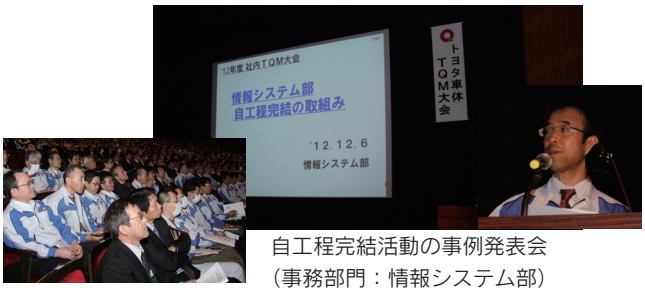
■改善の例■



お客様第一を浸透させる 教育・啓蒙活動

自工程完結活動を通じたお客様第一の浸透

良い品質はお客様第一の実践から生まれるとの考えより、製造現場に加えて、事技スタッフ業務においても、仕事の品質向上と「お客様第一」意識の啓蒙と実践活動に取り組んでいます。
具体的には、「お客様（後工程）に迷惑をかけない」「自ら仕事の成果の良し悪しをその場で判断できるようにする」ことを狙う「自工程完結活動」を全社的に展開しています。



自工程完結活動の事例発表会
（事務部門：情報システム部）
⇒良い取り組み方を皆で共有し実践

お客様第一の浸透と意識啓発

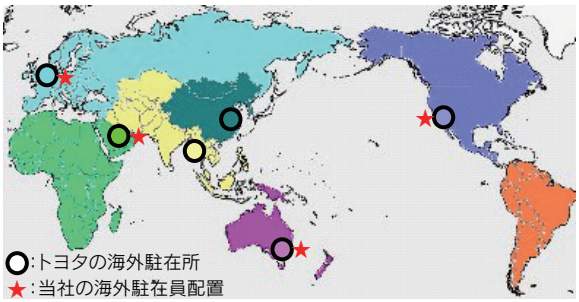
全社員への「お客様第一」「品質第一」の浸透のために、階層別の品質教育とともに、品質講演会・品質事例展示会などを定期的に開催しています。
12 年度には、過去の開発・生産準備・量産各段階での失敗事例の教訓をいつでも見れる常設品質展示場を新たに設置し、新製品や変化点での仕事の進め方に活用しています。

過去の失敗事例の教訓を現物も含めて見れる常設展示場

お客様情報の把握と素早い対応

お客様の貴重な品質情報は、トヨタ自動車ときめ細かく連携して業界最速を目指した「EDER*」活動で展開しています。
海外のお客様情報に対しても、現地現物での素早い原因調査、素早い展開のために、各地域に駐在員を配置し、活動しています。

■海外のお客様情報を調査･展開する駐在員の配置■

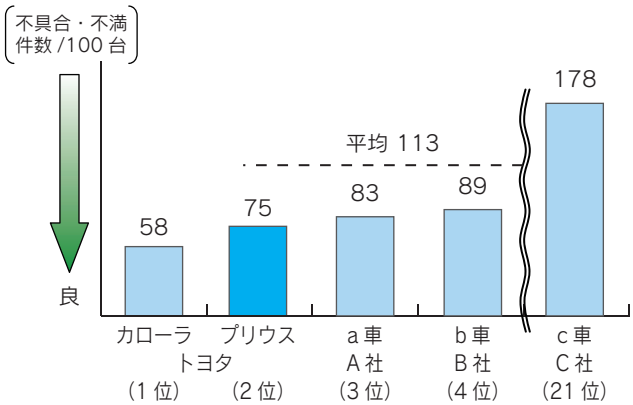


*EDER：Early Detection and Early Resolution
EDER とは、いち早く市場品質問題を発見し、直ちに問題を解決し、速やかに改良・改善の結果をお客様にフィードバックすることです。

世界でトップクラスのお客様評価

当社の品質確保の取り組みは、量産車全てに同様の考え方で進めています。
その結果、米国でのお客様評価を表す JD パワー社の IQS（初期品質アンケート評価）では、プリウスが、"コンパクトカーセグメント"でカローラと同様にお客様から高い評価を頂きました。

■米国ＪＤパワー社ＩＱＳ評価■
＜コンパクトカーセグメント：全21車種＞



お客様とのかかわり

大きな安心感に包まれた安全性の追求

お客様に「安全」「安心」なクルマをお届けするために、事故を起こす可能性を極力少なくする「予防安全」、事故の被害を最小化する「衝突安全」、の視点で開発を推進し、各国でクラストップレベルの安全性能の実現を目指しています。

お客様に「安全」「安心」なクルマをお届けする取り組み

トヨタと連携した安全機能強化への取り組み「予防安全」

＜プリクラッシュセーフティシステム (CT200h)＞

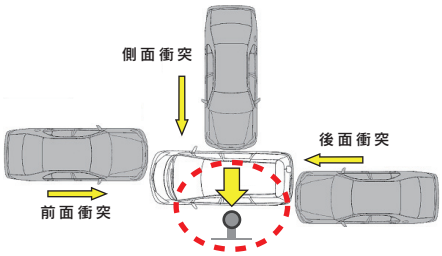
先行車などに衝突する可能性が高いと判断した場合、プリクラッシュブレーキアシストやプリクラッシュブレーキが作動し衝突速度を低減。同時にシートベルトを巻き取り、ドライバーを拘束して衝突被害軽減に貢献します。当社はトヨタと共同開発する中で、優れた安全機能の適用に取り組んでいます。

プリクラッシュセーフティシステム
（ミリ波レーダー方式）

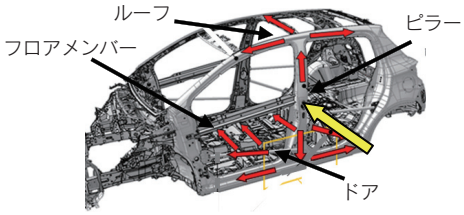
もしもの事故の際に被害を最小化する「衝突安全」

＜乗員保護（衝撃吸収ボデー）＞

乗員保護性能を保持するためには室内空間の確保が最も重要と考え、従来の前面・側面・後方からの衝突に加えて、車両が横滑りして樹木や電柱へ衝突したことを想定したポールへの衝突にも耐えられるキャビンの高強度化に取り組んでいます。
当社では衝突実験・評価を通じて、ピラー、ドア、フロアメンバ、ルーフ、などで荷重を分散させる衝撃吸収構造などにより、キャビンをより強固に保つことに取り組んでいます。
また、同時に側面からの衝撃評価をもとに、後部座席の乗員の保護に取り組んでいます。



樹木や電柱を想定したポールへの衝突

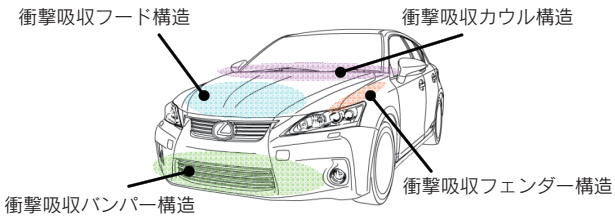


側面衝突時の荷重分散させる衝撃吸収イメージ

＜歩行者保護（歩行者傷害軽減ボデー）＞

万一の対人事故に備えて、歩行者の頭部や脚部への衝撃を緩和するためにバンパー、フード、フェンダー、カウルに衝撃吸収構造 *1 を採用しています。

*1 衝撃吸収構造：たとえば、フードとエンジンまでのスペースを確保することなどでフードが変形しながら衝撃を吸収する構造



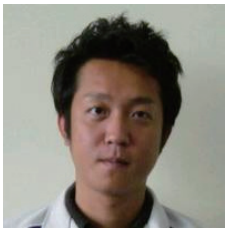
安全なクルマづくりの取組みの成果

すべての開発車両において日本及び欧州、豪州、米国など世界各国の衝突安全アセスメントで高い評価を戴いています。2012 年度はトヨタ自動車と共同開発したレクサス ES が米国 N-CAP で最高ランクの 5 つ星を獲得しました。

レクサス ES

最高ランク
5 つ星獲得

衝突安全性能評価　担当者の声



衝突安全実験室
筒井 正和

お客様の安全性への期待は、歩行者の保護や予防安全を含めた総合的な安全の確保へと高まってきていると感じています。設計、CAE と連携して取り組み、お客様の期待に応えつづけていきたいです。

click 「安全なクルマづくりの取組みの成果」

お客様とのかかわり

福祉商品、特装車を通じて、より良い社会づくりに貢献し、お客様の豊かな暮らしをサポートできる企業を目指します。

福祉商品でより多くの方に「移動の自由」と「喜び」を提供し、多様なニーズに応えた特装車でより多くの方の「生活に」貢献していきます。

全ての方に快適な移動の自由を

福祉商品の普及活動

日本各地で開催される福祉イベントへの出展や福祉施設を訪問し、お客様と直接ふれあい、福祉商品の普及活動に取り組んでいます。

福祉商品について実演での説明
（国際福祉機器展 2012）

多様な生活への提案

特装車の普及活動

各種イベントへの出展等を通じ、多様な生活に向けた提案が出来る様取組んでいます。

「ジャパンキャンピングカーショー 2013」に初出展

キャンパー企画　担当者の声

（株）東海特装車
企画開発部　小川　悟

働くクルマづくりで培ったノウハウを生かし、お客様が楽しんで頂けるクルマづくりにチャレンジしました。
お客様の声をお聞きし更なる向上に努めます。

海外の方にも「移動の自由」と「喜び」を

海外のお客様にも提供できる様、福祉車両事業をグローバルに展開していきます。

中国での普及活動

中国に福祉機器の架装・販売を担う合弁会社「嘉興豊実福祉汽車部件有限公司」（TA-MI）を2011年5月に設立しました。
中国のお客様にも提供できる様、福祉車両事業を展開していきます。

中国パラリンピック（2011年）への協賛や福祉展への出展等により周知・普及活動を行うとともに、販売を通じ市場調査、啓蒙活動を進めています。

中国のお客様に福祉車両を紹介
（北京「中国国際福祉博覧会」）

中国パラリンピックで聖火ランナーの伴走車として使用

中国パラリンピックでの出展会場
中国政府要人も来訪し実際に体験

中国福祉　責任者の声

TA-MI
総経理　向井　千晶

高齢化社会の問題は中国でも深刻で、「福祉」の概念も薄く、老人や障害者は家に閉じ込もる傾向にあります。
私たちは「福祉車両ユニット」の紹介を通して中国での福祉に寄与し、身体弱者も自由に移動できる社会の実現に貢献していきます。

click「福祉商品ラインナップ」　click「特装車商品ラインナップ」　click「TA-MI」

取引先様とのかかわり

取引先様とともに、よいクルマづくりを通じた社会への貢献

オープンでフェアな取引を推進し、取引先様との相互信頼にもとづく共存共栄をめざした調達活動の実践により、よりよいクルマづくりに取り組んでいます。

調達の基本な考え方

当社はオープンでフェアな競争を図るため、当社との取引を希望される国内外の全てのサプライヤーに対して、国籍・企業規模・取引実績の有無を問わず、公正かつ公平な参入機会を提供しています。

そのために、当社では次の３点を「調達の基本方針」として定め、調達活動をグローバルに展開し、取引先様と一緒になって活動しています。

1. オープンでフェアな企業行動に基づく公正な競争
2. 相互信頼に基づく相互繁栄
3. 良き企業市民を目指した現地化の推進

13 年度の取り組み（方針）を取引先様と共有

オープンでフェアな取引と相互信頼のために

取引先様との情報共有

オープンでフェアな取引と相互信頼を実現するためには、当社の１年間の調達活動方針と考え方を 取引先の皆さんと共有することが重要であり、「部品」「設備」「資材」の全ての取引先の皆さんを対象に、毎年３月に「調達方針説明会」を開催しております 。

方針説明会では、毎年 品質向上・コスト低減の取り組みにおいて成果のあった取引先の皆さんに感謝状を贈呈しております。

また、従来取引実績のないサプライヤー様にも、新技術展示会や個別にプレゼンテーションを開催していただくことで、当社として 広く競争力のある取引先様の開拓に努めております。

年間を通じて品質・コストで成果のあった取引先様に感謝状を贈呈

取引先様との共存共栄を目指した活動推進

仕入先ＣＳＲガイドラインの展開

取引先の皆様への期待を明確にするため「仕入先 CSR ガイドライン」を作成しております。

事業活動がグローバル化する中で、当社に期待される社会的責任の領域や内容も年々変化しており、最新の情勢を踏まえ適時見直し、活動しております。

三重県企業による新技術展示会

click 「仕入先 CSR ガイドライン」

■社会側面

取引先様とのかかわり

取引先様との共存共栄を目指した活動推進

環境に配慮した調達活動の推進

「低炭素社会」「循環型社会」「環境保全共生社会」の構築に向けて、当社として取引先の皆さんに推進していただきたい項目を「グリーン調達ガイドライン」として発行し、ともに環境にやさしい車づくりを進めています。

click 「グリーン調達ガイドライン」

海外取引先様との協業による現地生産の積極的な展開

当社は 2012 年 12 月より、タイ・インドネシアにて、車両の生産を開始し、完成車両メーカーとして海外での大きな一歩を踏み出しました。

各国の法令や取引慣行を遵守しながら、現地のサプライヤー様とともに、質の高い製品づくりに、取り組んでいます。こうした活動を通じて、現地サプライヤー様との取引の拡大に努めることで、地域社会の発展にも貢献していきます。

品質確保に向けた現地サプライヤーとの現物検討（タイ）

取引先様による協力会活動

取引先様の協力会である「車体協和会」では、会員相互の研鑽を狙った部品、および、設備の「部会活動」や、品質や安全、労務コンプライアンス、原価などのテーマ別に経営課題に取り組む「研究会活動」を 実施しています。
これらの活動を通じて、各社の取り組みを研究し、ともに成長・発展を目指して活動しています。

部会活動での
会員相互の研鑽会

「安全研究会」の各社巡回による現地安全確認

相互信頼強化に向けた活動

調達スタッフに対しては、行動規範をマニュアルに整備し、調達部内での教育を実施することで信頼される調達マンの育成に取り組んでいます。

加えて、オープンでフェアな取引と相互信頼をより強化する為に、当社の調達活動を取引先の皆さんに評価していただき、今後の活動に反映しております。

また、調達部員のみならず、従業員一人ひとりがオープンでフェアな活動を実践するため、下請法等の関連法規の社内Ｅラーニングや、リーダー勉強会などの啓蒙活動を全社に展開しております。

協和会での労務コンプライアンスの講演会

子会社も参加した下請法推進リーダー勉強会

地域とのかかわり

地域と共生、自然と調和する工場づくりの推進

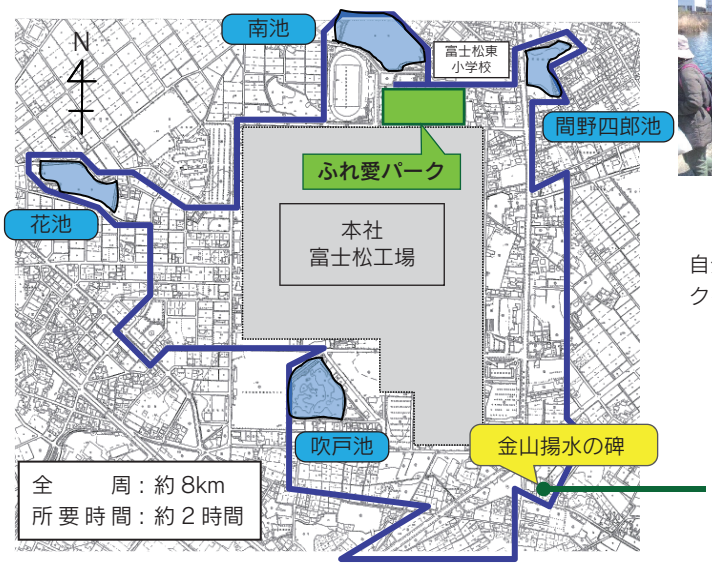
私たちは、自然や多くの生きものと関わりながら生活しています。人と自然が共生、地域の環境を維持するため 地域の皆さんと連携し、自然と調和する工場づくりに取り組んでいます。

「富士松 池と花四季の小径」散策路の整備

2009 年度より、富士松工場周辺の池を散策しながら自然とふれあい、地域の歴史を学ぶ散策路『富士松 池と花四季の小径』を地域の皆さんと連携し整備しています。2012 年度は、金山揚水通水 100 周年に合わせ「金山揚水歴史看板」を設置しました。
また地域の方々と一緒にウォーキングイベントなどを開催しました。

散策路コース案内看板
（2010 年）

地域の小学生が絵付けした
池のほとりの敷き絵（2011 年）



click 富士松 池と花 四季の小路散策マップ

自分の描いた敷き絵を探したり、
クイズラリーをしながら小径を散策

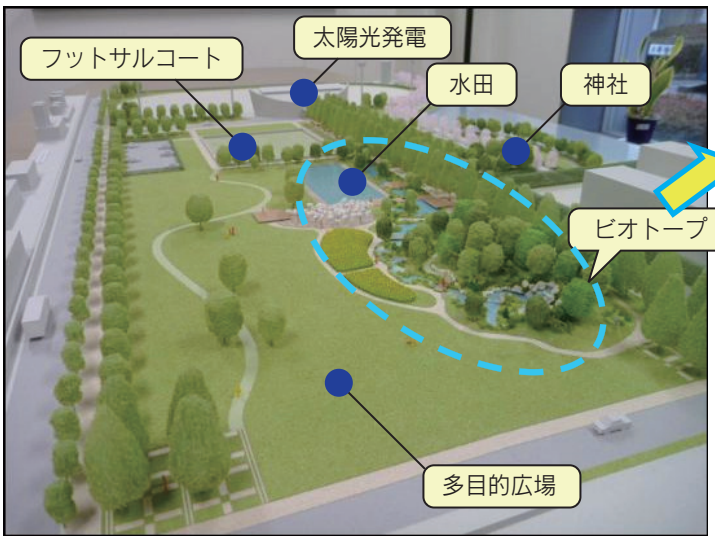
「金山揚水」の歴史を記した看板

刈谷 ふれ愛パーク＊の整備に着手

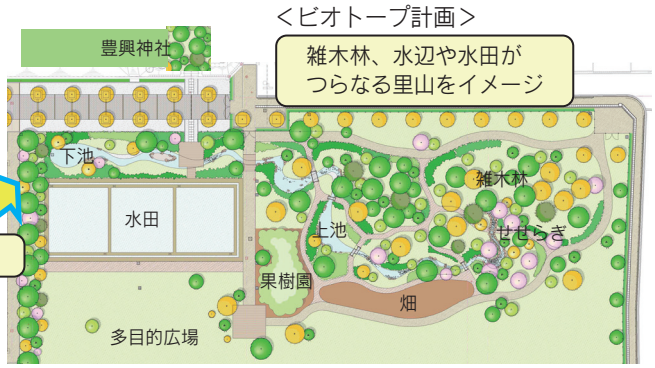
*2013 年 5 月に正式名称
「トヨタ車体 刈谷 ふれ愛パーク」としました。

環境学習と憩いの拠点をめざした『刈谷 ふれ愛パーク』の整備に着手、2013 年 2 月 5 日に地鎮祭を行いました。
『人と自然の調和』をコンセプトに、自然とふれあい、環境学習やスポーツなどを楽しめる場として整備するものです。
ビオトープ（生物生息空間）は、愛知県の生物多様性戦略の一つである工場の緑地や周辺緑地などとのネットワークづくりにも貢献できるように整備を進めます。里山をイメージしたビオトープおよび農業体験場、多目的広場は、来春完成の予定です。

＜刈谷 ふれ愛パーク模型＞



＜ビオトープ計画＞



刈谷 ふれ愛パーク整備　担当者の声

PE環境部　森山 義広

多くの生きものが生息し、雑木林や水辺でやすらぎを感じられ、地域の方々に親しまれるビオトープをめざして整備を進めています。

地域とのかかわり

社員のボランティア参加による社会貢献活動の推進

地域と共生し、良き企業市民としての社会的責任を果たすため、当社では社員の社会貢献意識をサポートするために「人づくり」「場づくり」「しくみづくり」の観点から様々な施策を展開しています。

人づくり

共感力を高め、地域で喜ばれるボランティア人材の育成

ボランティア活動の動機付け入門講座から、活動リーダー養成講座まで、年間 60 の講座を開設し、社会・地域貢献に対する共感力を高め、喜ばれるボランティア活動のできる人材の育成に努めています。
入門講座での庄野真代氏の「一人ひとりにできること」講演会や活動の核づくりとしての、先進企業に学ぶと題した、㈱デンソー様との勉強・交流会を実施しています。
また、座学と実習を組合せ、現場でのボランティア活動を通じて気づきの醸成を図るべく新入社員体験型講座を開設しています。

入門講座・庄野真代氏

リーダー養成講座

新入社員研修に組み入れた体験型講座

体験研修　担当者の声

吉原　品質管理部
品質技術員室　　井上　慶

障がい者施設で体験研修を行いました。元気よく明るい笑顔で接したら皆さんも明るくこたえてくれ、私のほうが元気をもらいました。

活動の場づくり

拠点各地での森林整備と場づくり

愛知県では 2012 年度より県有林にて、トヨタ車体グループ 7 社で *1 間伐・森林整備活動を開始しました。また、三重県ではいなべ企業の森整備活動で、里山再生・動物との共生を図る取組みを昨年度より開始しました。

*1: 当社、㈱東海特装車、トヨタ車体精工㈱、エース産業㈱、TABMEC ㈱、東海部品工業㈱、㈱エル・エス・コーポ レーション

愛知県豊田市森林整備
トヨタ車体グループ 7 社

三重県いなべ市森林整備植樹
イベント菌うち (左) 開始式 (上)

鹿児島・岐阜県ではグループ 2 社が森林整備活動を行っています。また、インドネシアでも 2006 年からの 5 年計画を完了し、2011 年より新たに 5 年計画で関係現地法人 2 社 *2 と共同で 100 万本のマングローブを植樹しています。

鹿児島県霧島市森林整備
㈱トヨタ車体研究所

岐阜県美濃白川森林整備
岐阜車体工業㈱

インドネシア植樹
当社・現地法人 2 社

*2: スギティークリエーティブス㈱、トヨタオートボデートーカイエクストゥルージョン㈱

■社会側面

地域とのかかわり

職場（ブロック）を中心とした場づくり

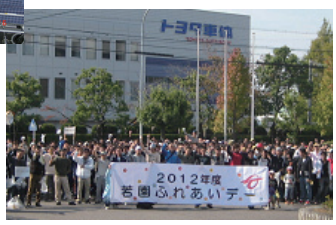
刈谷ブロックでは、地域とともに遊歩道清掃・敷き絵磨きと福祉施設での車椅子清掃や手作り雛人形、こいのぼり、クリスマスツリーなどの近隣幼稚園への寄贈を行っています。また、観葉植物苗の栽培と地域イベントでの配布を通じ緑化活動にも協力しています。いなべ・豊田ブロックでは地域及び近隣企業と合同で清掃活動などを行っています。
このような社員参加のボランティア活動は年間を通じ、環境保全美化活動として地域の方々と取組んでいます。

刈谷ブロック「池と花 四季の小径」
清掃と敷き絵磨き（上）と
施設での車椅子清掃（右）

生技部門
雛人形寄贈

開発部門 苗の配布

いなべブロック「まちなかチョイツアー」
クリーン活動（ゴミ拾い）



豊田ブロック「若園ふれあいデー」
除草作業とゴミ拾い

地域スポーツ支援活動

地域の青少年とのふれあいを大切にした活動として、少年サッカー大会の支援ならびにハンドボール・バレーボール部員によるスポーツ教室などを行ってます。

トヨタ車体カップ
少年サッカー大会

東日本大震災　被災地支援活動
（トヨタグループ 被災地復興支援活動）

岩手県気仙地区にて田畑や線路沿いの瓦礫撤去、道路緑地の手入れや、地域の集いの場づくりなどに参加し、一日も早い復興のお手伝いをしています。

＜陸前高田＞

「みんなの家」
作り支援

側溝の泥掻きだし・草取り

社員有志のボランティア組織「TAB ふれあいクラブ」サークル活動

組織の枠を越え、共通の趣味・関心を持つ仲間が集まり、地域でのボランティア活動に取り組んでいます。

click

TOUCH IS LOVE
TAB ふれあいクラブ
TOYOTA AUTO BODY

- 緑化活動
- 外出支援
- 施設慰問
- 介護福祉
- 収集
- イベント支援
- 災害救援支援
- IT支援

活性化・継続のしくみづくり

ボランティア活動を支援する「ポイント制度」

社員や家族が、気軽に積極的にボランティア活動やエコ活動に参加できるよう、活動内容に応じてポイントが付与される制度を当社独自の社内制度として導入しています。活動によって貯めたポイントは、会社指定の環境商品やフェアトレード商品、福祉施設での就労促進などに貢献する品物と交換したり、希望する分野へ寄付することができます。2012 年度より一定水準に達した社員に、会社より記念品（ネーム入り帽子とピンバッチ）を贈呈しその活動を称えています。（71 名 /2012 年）

＜ボランティア＆エコポイント制度のしくみ＞

社会貢献活動 ⇨ 活動報告・ポイント付与 ⇨ ポイント還元

（対象者）

- 当社社員と家族
- 社会貢献ボランティア＆エコ活動（環境・福祉・地域のフィールド）
- 報告・申請
- ポイント付与・登録
- エコ商品等と交換 or 寄付

帽子とピンバッジを受けたボランティア活動者の声

車両実験部　室内安全実験室
酒井　一彰

活動を通じて多くの方と出会い、地域にも喜ばれ、自分自身の成長につながると思います。更に会社からも認められ、とても光栄でボランティアの励みになります。

社員とのかかわり

相互啓発型の対話活動で「安全な職場」づくりを推進

社員の一人ひとり～関連仕入先全てのパートナーが当社の安全活動に参加してもらい常に社員・パートナー目線の改善に努め、個人が主役の安全活動で災害ゼロを目指し活動を推進しています。また海外事業体の安全活動支援も行っています。

全社員での災害ゼロの誓いと社長による安全活動優秀職場表彰

全社安全大会で「安全基本ルールの実践」をスローガンに社内役員・部課長および関連子会社トップを含め全員で唱和し、災害ゼロの実現を誓い合いました。

また、年間を通じ成果・プロセス共に優秀であった職場に社長から表彰を行い、全社への意識付けを行っています。

全社安全大会（2012 年 7 月）

社長と優秀職場の課長さん（2013 年 4 月）

安全専念タイム活動

毎週月曜日午前中と毎日昼休憩後の 1 時間を全社統一の安全専念タイムとし基幹職～組長まで現場に出て作業観察やオペレーターの意見を吸上げ改善に繋げています。

自分達が主役の安全活動

各組には、やり難い作業の改善提案などオペレーターによるボトムアップ活動の中心的役割を担う安全リーダーが選任されています。職制とオペレーターのパイプ役として、やりがいを持ち活躍しています。

事務・技術スタッフへのヒヤリ体感活動

危険予知にはまず怖さを知る事が重要との考えより、従来行ってきた技能系職場に加え、事務系職場を追加し安全な人づくりに取り組んでいます。

プレス工程での作業観察とヒアリング活動

安全リーダーの声

吉原組立部 第2組立課
大石　貴則

安全リーダー全員が集まれる環境が整備され、課の安全衛生委員会への問題提起や相互研鑽活動など自分達が職場を変えていくキーマンだと責任感を持ち取り組んでいます。

滑りヒヤリ体感

休日工事やトラック輸送・荷役における災害ゼロ活動

当社敷地内、当社に関わる輸送における災害発生をゼロにしたいとの考えのもと、外来工事業者や輸送業者と連携し、長期連休工事安全の確認（決起集会）など安全管理のレベルアップ活動を推進しています。

長期連休前の工事安全決起集会

海外事業体での災害ゼロを目指した活動

海外車両生産工場立上げに伴う工事安全や各事業体の安全管理レベルアップ活動として現地安全スタッフや工事業者のスキルアップを目指し、定期的な現地指導を推進しています。

特に高所からの転落や電気による感電事故は日本でも重大事故に繋がる事が多いので海外にも重点的に展開しています。

インドネシアでの工事安全協議会（朝礼でヘルメットの重要性を説明）

検電器の使い方指導（電気が流れていないか確認）

click「安全体感道場（TABMEC）」　click「安全衛生基本方針」　click「労働災害発生状況」

社員とのかかわり

社員の心身両面の健康をめざして

社員の健康は個人と会社双方にとって最大の財産と考え、健康企業の実現に向けて様々な施策を実行することで社員一人ひとり、および、その家族を含めて、生活習慣を改善し、継続的に健全な生活習慣を身に付けられるよう取り組んでいます。

健康意識の喚起

10 月を労働衛生月間と位置付け、メンタルヘルス、メタボ予防についての講演会、展示会を工場単位で開催しており、また、毎年春と秋の 2 回健保組合主催で社員とその家族参加の健康ウォークを開催し、社員とその家族が自律的に健康づくりを実践していくためのきっかけづくりを推進しています。

健康フェスタで社員と家族も健康測定

社員とその家族参加の健康ウォーク

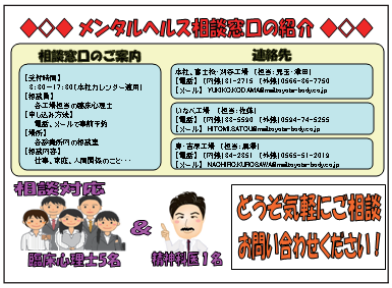
社員全員へ毎年 1 回の健康指導

労働安全衛生法に基づく健康診断に加え、看護師からの健康指導を一人ひとりの生活習慣に合わせた指導を全従業員へ年 1 回実施し社員の健康意識醸成に取り組んでいます。

健康診断時の健康指導実施

社員の悩みへスピーディーに対応

各診療所へメンタルヘルスの専門家である臨床心理士が常駐することで、社員から寄せられる 様々な相談に迅速に対応し、社員の心の健康度アップを推進しています。

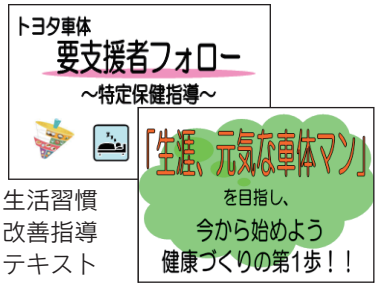


社員用 HP での相談窓口紹介

生活習慣改善指導

健康保険組合と協業してメタボ対策を重点とした食事や運動等、生活習慣改善指導に取り組んでいます。

35 歳以上の健康診断でメタボ判定を受けた社員へ保健師などから個別の生活習慣改善指導を 6 ヶ月間実施しています。



生活習慣改善指導テキスト

一人ひとりに対話型でのメタボ指導

禁煙支援活動

健康保険組合と協業して、禁煙治療を社内診療所で実施するなど一人でも多くの社員が禁煙できるように活動を推進しています。

2012 年より産業医が指導する人、保健師、看護師が指導する人を健康状態により層別し、職場へ出向いて禁煙教室を実施しています。

各工場で産業医による禁煙講演会を実施

禁煙外来卒煙生の声

Y部品調達室
雑賀　考浩

禁煙によって時間が有効に使えるようになり、健康に対する意識も上がりました。

社員とのかかわり

ルール遵守の教育・訓練を通じて「健全な職場」づくりを推進

コンプライアンス

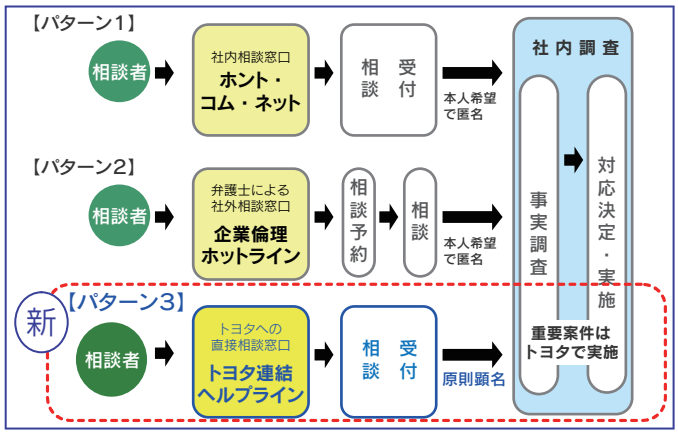
CSR 委員会の下部組織として「企業行動倫理委員会」を設置し、法令遵守のしくみ充実、健全な企業風土の構築に向けた活動について審議・方向付けを実施するなど、トヨタ車体グループのコンプライアンス活動の仕組みづくりの取組みを行っています。
また、社員へのコンプライアンス徹底のために、「私たちの約束すること(G 行動指針)」を教育・研修などの場を通じて継続的な徹底を図り、コンプライアンスを確立していきます。

click 「トヨタ車体グループ行動指針 (2005.3 月発行)」

企業倫理相談窓口の更なる充実

労働問題等、上司や同僚に相談しにくい案件について、E メールなどで直接受け付ける相談窓口「ホント・コム・ネット」や、弁護士による社外相談窓口「企業倫理ホットライン」を設置し、適切な対応ができる体制を整えています。
また、2013 年 1 月より、社内窓口で相談しづらい場合は、トヨタに直接相談できる「トヨタ連結ヘルプライン」を設置し、更にきめ細かい対応を行っています。

企業倫理相談窓口の3つのパターン～社内調査まで



リスク管理

多様化するリスクを最小化すべく、内部統制の一環としてリスク管理の充実強化にトヨタ車体グループとして取り組み、経営に影響があるリスクを評価・特定し、未然防止・初動対応の整備を進めています。
2012 年はネットトラブルのリスクの回避に取り組みました。

「ソーシャルメディアの利用上の心得」の策定と展開

近年ソーシャルメディア利用者が拡大し、会社の機密情報漏洩や従業員がネットトラブルに巻き込まれるリスクが増大してきています。
これらのリスクを回避することをねらい、2012 年 11 月に「ソーシャルメディア利用上の心得」を策定し、社内および子会社、仕入先への説明会や職場ミーティング、社内報などで全社に展開しました。
その結果、ソーシャルメディアの特性とそのリスクについての従業員の理解が深まり、リスクの未然防止の一助とすることができました。

ソーシャルメディアとは、インターネット上で情報交換を行うツール

※SNS(*): 多くが会員制
(facebook は原則、本名を登録)
(*) Social Network Service の略

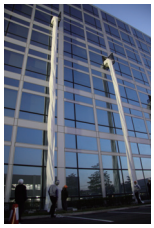
「ソーシャルメディア利用上の心得」の概要

Ⅰ. 責任	不適切な投稿の結果、個人として責任を負うことになるリスクがあることを認識する
Ⅱ. 心構え	一旦投稿した内容は、瞬時に広範囲に広がり、半永久に消えないことを認識する
Ⅲ. 注意事項	・他人のプライベートな情報を発信しない ・感情的な発言や誤解されやすい表現は避ける ・素性を隠したまま、自社や自社製品のアピールをしない 等

大震災で本当に使える総合防災訓練の実施

2012 年には全事業所、子会社のトヨタ車体精工株式会社などと連携して、突然発生する地震災害に備え、より実践的な総合防災訓練を実施しました。
具体的には、
・事技員を対象に、訓練時刻を非公開とすることで、就業中の様々な場所や状況で被災した際の避難訓練
・工場では係工長を長とした夜間での訓練
などを実施することにより一層防災意識を高めることができました。

生技部門の避難訓練



救助シューターを使用した救出訓練

夜間の非常電源が点灯する中で避難状況を確認

社員とのかかわり

社員一人ひとりが創造性を発揮し、仕事を通じて自己実現をめざす「人材育成とキャリア支援」

中長期的な視点から人材育成するしくみを構築し、自ら考え、自ら行動できる『自律型人材』の育成に継続的に取り組んでいます。また、新たな成長に向けた海外人材の育成、専門技術教育の強化を重点に進めており、「モノづくり力の強化」にも継続的に取り組んでいます。

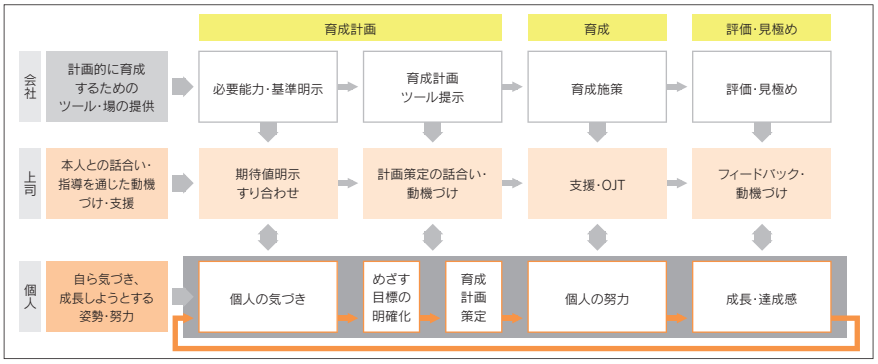
人材育成の基本的な考え方

自ら考え自ら行動できる『自律型人材』の育成をねらい、個人、会社、上司の３者が一体となって、中長期的に人材育成するしくみとして「キャリアサポートプログラム」を構築し、個人の育成を促進しています。

グローバル人材育成の充実

オールトヨタ車体グループ全体の海外事業拡大のため、グローバル人材育成の充実に取り組んでいます。

個人の成長を促進・サポートする仕組み（キャリアサポートプログラム）



海外育成出向

急速な海外事業展開に対応出来る人材を早期育成するために、2011 年度より若手社員を対象とした育成出向制度を立ち上げました。

2011 年度はアメリカに 5 名、2012 年度はアセアン地域にも派遣先を拡大し 7 名、3 年目となる 2013 年度は若手の人材育成の更なる推進をねらい 10 名を派遣する予定です。

2011年度（1期生）　経理部　田尾 恵

はじめは言いたいことのニュアンスを伝えるのにとても苦労しましたが、現地の方の笑顔と優しさに励まされながら言葉の壁を乗り越えていくことができました。

2012年1月～1年間
APMMに出向　（本人は左手前）

2011年度（1期生）　吉原製造技術員室　藤田 新策

同じ目標に向かって”face to face”で取り組んでいくことでローカルスタッフと良好な関係を築けました。
社内の若手社員にも育成出向にどんどんチャレンジしてもらいたいです。

2012年4月～1年間
TMKに出向　（本人は一番右）

（上司コメント）
視野が広がり一回り成長したと感じます。
経理部 の主力として今後の活躍を期待しています。

2012年度（2期生）　人事部　中田 大貴

より視野を広げるために、日本で担当していた業務に加え、全く始めての実務にもチャレンジしています。悩むことも多いですが、得られることが多くやりがいを感じています。

2013年1月～1年間
APMMに出向　（本人は左）

2012年度（2期生）　生産調査部　山本 浩平

トヨタ車体の最大の海外事業体であるスギティ社でローカルスタッフとの積極的なコミュニケーションに努め、海外での仕事の進め方を学んでいます。

2013年1月～1年間
スギティに出向　（本人は一番左）

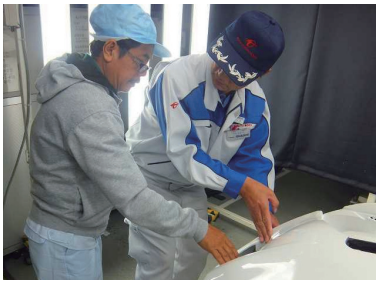
■社会側面

社員とのかかわり

グローバル人材育成の充実

海外ローカルトレーナーの育成

日本のモノづくりを海外にも浸透させるため、海外子会社から研修生を受入れ、現地で職種の基本技能（バンパー塗面の磨きや面検、ボデーの治具セット）を教えることができるローカルのトレーナーを育成しています。



基本技能を身につける
（インドネシア研修生）

ボデーの治具セット技能の習得
（マレーシア子会社研修生）

海外コミュニケーション能力の向上

グローバル化のベースとなる語学力の底上げと業務ニーズに合わせた語学力アップに向け、語学力レベルに応じた英語のクラスレッスン形式の研修を開講しています。

英語研修

プロ人材の育成

開発技術者教育の強化

1 年目の新人教育後、職場 OJT と 3 年目の初級教育により「3 年で一人立ち」できる人材育成を目標としています。
中堅向けの中級教育、マネージャー教育とステップアップする、体系立てた開発技術者教育を実施し、開発力強化を目指しています。

開発技術者教育は、講義ルームと教育展示場、CAD 教育場を一箇所に集めた開発センター教育エリアで、一貫性を持たせた、より実務に近い教育を現地・現物で、体感する教育としています。

現物を用いた開発部門新人教育

CAD 教育

生産技術専門教育の強化

'08 年にエンジニア塾を立上げ、教材・教育スペースなどの改善を推進。世界トップレベルのミニバン・商用車造りを目指し、車両分解教育の中で、より良い車の構造や造り方技術を教え込みます。

また、特に新人に対しては、1 年目はものづくり実習など現地現物による、“見て、触って、感じる”教育と、メカニズムや理論を学ぶ教育を実施。2 年目は先輩について仕事の仕方、物の考え方を学び、「3 年で一人前に！」を目標に、早期戦力化を目指しています。

車両分解教育

設備技術教育

■社会側面

社員とのかかわり

プロ人材の育成

モノづくりのプロの育成

お客様の安心と信頼を得る品質を作りこむべく、「モノづくり力」の強化のため、入社から中堅層にかけて技能系教育訓練や技能伝承・研鑽に取り組んでいます。

技能五輪自動車板金職種 競技

＜新人教育訓練、技能伝承＞

専任講師による「基本技能訓練・知識教育」を新人を対象に実施しています。
また、将来、職場の核となる人材の早期育成を目指し、「高技能伝承専門コース（技能五輪挑戦）」を実施しています。

＜中堅社員教育訓練、技能研鑽＞

プレス・ボデー・塗装・成形・組立・保全など技能系８職種を対象に専任講師により、資格に応じた「技能訓練・知識教育」を実施しています。

特に保全職種は、近年の設備の高度化・複雑化などにスピーディに対応でき、更なる生産性向上を図るために、搬送設備制御やロボットなどの教育訓練を充実し、実施しています。

さらに、自らの努力の成果を確認する場として「技能検定」「技能コンクール」等を実施し、更なる知識・技能の向上とチャレンジ意欲向上に繋げています。

技能コンクール
ボデー職種 ハンドワーク技能

技能五輪 参加者の声

「敢闘賞」受賞者
技能育成室
木村　翔

諦めずにやり続けることの大切さを学びました。この経験や技能を後輩に伝承していきます。

（国内外も含めグローバルに展開）

特に技能コンクールは国内・海外子会社から３社が初参加し、トヨタ車体グループ全体の技能向上に取り組んでいます。

モノづくりに長年にわたり精進し、熟練技能者として『あいちの名工、三重の名工』に選出される社員もおり、社員のモチベーション高揚につながっています。（2012年度愛知県２名、三重県１名が名工を受賞）

技能コンクール 参加者の声

技能コンクール仕上げ職種
最優秀賞（中技2級）受賞者
春翔欽業（台湾）　陳　建宏

まだまだ学ぶことが多いと感じた。コンクールで感じた仕事への取り組み姿勢を自分自身の仕事に展開していきます。

職場改善力向上に向けた取り組み

ＱＣサークル活動

ＱＣＣ活動を通じて、自己の成長と達成感を味わうとともに、明るく活力に満ちた働きがいのある職場づくりや、お客様満足度の向上、社会への貢献に取り組んでいます。

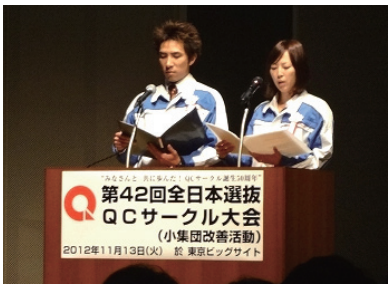
海外子会社サークルの改善発表風景
（トヨタ車体グループ QC 大会）

（国内外も含めグローバルに展開）

毎年開催の『トヨタ車体グループＱＣサークル大会』では、国内外の協力会社からの参加も年々拡大し、「共に学び・共に成長」の場としています。

2012 年は、558 サークルの活動をベースに、選抜されたサークルによる発表を行い、「サークル改善」「管理監督者」「国内外関係会社」のジャンル毎に優秀賞を選び、活動の活性化に繋げています。

また、「サークル改善」の上位２サークルは、全日本選抜大会へ挑戦します。



全日本選抜大会での HAPPY サークル
（いなべ工場車体部）の発表

「本部長賞金賞」

社外発表成果（全日本選抜ＱＣ大会など）

12 年度は、社外ＱＣサークル大会で 12 件の優秀賞を受賞しており、特に、全日本選抜大会で『本部長賞金賞』を２年連続で受賞しました。（２年連続の金賞受賞は当社初）

社員とのかかわり

社員一人ひとりの幸せと会社の発展を支える風通しのよい職場づくりと一体感の醸成

風通しのよい職場風土をつくるため、全社的なものから職場単位のものまで大小さまざまな場づくりを行い、職場や職位の枠を超えたコミュニケーションの活性化、一体感の醸成を図っています。

コミュニケーション活動の充実

全社のコミュニケーション

トヨタ車体グループ No.1、トヨタグループ No.1 への挑戦を通した全社的な一体感の醸成・活性化をねらいとして、スポーツ大会を実施しています。

全社スポーツ大会
「トヨタ車体グループ フットサル大会」

フットサル大会　参加者の声

トヨタ車体グループ
フットサル大会
優勝チーム

いなべ車体部
プレス保全課
野上　純平

日頃のチームワークの 良さで、2連覇を達成。仲間の応援もあり、大会を通じて職場がひとつになれました。

事業所別のコミュニケーション

社員とその家族および近隣地域の方々のふれあいの場として、労使が協力して年 1 回、各事業場ごとにイベントを開催しています。会場内で社員による模擬店や職場対抗のアトラクションを行うなど、親睦を深め共感し合う場づくりを積極的に進めています。

本社・富士松工場イベント
「B 級グルメコンテスト」

いなべ工場イベント
「手作りみこしコンテスト」

部門別・職場別のコミュニケーション

職場の活性化、明るい職場作りをめざして、各部門の自主レク活動を支援。季節ごとのイベントや、特技の披露、職場対抗のスポーツイベントなどを開催し、部門の特徴をいかしたレクリエーションを実施することでコミュニケーションの活性化を図っています。

生技部門季節イベント
「手作りひな飾り」

開発部門文化イベント
「ミュージックフェスタ」

また、ハンドボール、バレーボール等の各スポーツクラブの試合会場では、チーム、自職場所属の選手を応援することを通して、職場の一体感の醸成を図っています。

職場の応援を受けプレーする選手

スポーツクラブ応援風景

社員とのかかわり

良き社会人であるための意識づくりと働きやすい環境づくり

人権意識の深化や交通安全意識の徹底など、良き社員であるとともに良き社会人であるための意識づくりに努めています。また、社員の様々な立場やライフスタイルを尊重しながら働きやすい環境をつくるため、諸施策の充実に取り組んでいます。

良き社会人であるために

人権意識の深化

「個人の尊重」の実現に向けて、同和問題や女性、外国人の人権等、様々な人権課題についての社内教育を新入社員や職制を対象に実施しています。また、社内人権啓発活動における指導的人材の育成をねらい、外部機関の研修・講座や「愛知人権啓発企業連絡会」に参画し、人権課題の解決に向けた取り組みを進めています。

新入社員や新任職制を対象とした教育を行うとともに、5 月の人権週間や 12 月の人権週間には工場や各職場でセクハラやパワハラを含めた職場での人権に関する啓発活動や話し合いを進めています。

人権教育 (新任職制研修)

人権啓発活動
(いなべ工場でのパネル展示)

交通安全意識の徹底

自動車メーカーとして、社員の交通安全意識の向上を重点に取り組んでいます。

12 年度は、従業員の更なる交通安全意識の向上をねらい、全工場で地域と連携した立哨活動を行いました。また、防衛運転の徹底をねらった警察署の交通安全課長による講演会や若年層の事故防止をねらった交通事故遺族による講演会を行ないました。

交通安全を呼びかける
立哨活動

交通安全課長による
自転車を用いた講習会

多様な働き方を支える環境づくり

高齢者の働き方支援

会社で培った豊かな経験や高い技能を、後継者の育成や技能・スキルの伝承に活かしてもらうことを可能にする定年退職者再雇用制度を 2001 年度より導入しており、2013 年 4 月からの再雇用義務化へ対応しています。

今後は、らくらく工程づくり、老後の資産形成に向けた意識づけ、健康・身体づくりサポートなど、より働きやすい環境づくりに向けて施策を展開していきます。

共同託児所
「たっちっちハウス富士松」
(2012 年度のべ児童数 :45 人)

子育てサポートの充実

仕事と育児の両立を図るための支援策について、社内託児所「たっちっちハウス」の開設や、短時間勤務制度、育児休職制度など、法定を上回る配慮を行い、ワークライフバランスの実現に取り組んでいます。

click 「妊娠・出産から子育てにわたるサポート」

皆様のご意見、ご要望を是非お聞かせください。

click https://www.toyota-body.co.jp/csr/contacts/enquete2013.html

発行

本社	トヨタ車体株式会社 〒448-8666　愛知県刈谷市一里山町金山100番地　TEL.0566-36-2121
お問い合わせ	経営企画部 TEL.0566-36-7510　FAX.0566-36-9113
発行	2013年6月（次回発行2014年夏予定） click http://www.toyota-body.co.jp/